



滞電

2010. 4 No. 31



改修工事により
リニューアルしたE1棟外観

目 次

会長ごあいさつ (白川功)	1	学生の声	15
講演会からの話題	3	会員の方々のご活躍	18
話 題	4	教室情報	18
母校のニュース	7	卒業者・修了者就職先	20
新研究室紹介	9	滞電会役員	22
教員紹介	10	支部連絡先	23
退職された先生方の近況	11	滞電会だより	24
卒業生の近況	12	クラス委員	31

大阪大学工学部電気系同窓会

滞電会

ホームページ : <http://www.reidenkai.jp/>

平成22年 4月

平成22年度大阪大学滯電会総会・懇親会ご案内

滯電会会長 白川 功

拝啓 陽春の候 会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、平成22年度滯電会総会ならびに懇親会を下記の通り開催いたします。昨年は総会及び併せて催した大阪大学電気系教室創立100周年記念式典に300名を超える卒業生や先生方が出席され、大盛況でした。母校の先生方を交えて、先輩、後輩、同期生の方々が一堂に会して旧交を温めつつ、情報交換を行う絶好の機会でございます。また、総会・懇親会に合わせて日頃ご無沙汰の同期会を企画されるのもよろしいかと存じます。

一昨年同様、本年も講演会を企画いたしました。最新の話題についてご講演いただく予定ですので、皆様お誘い合わせの上、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

敬 具

記

日 時： 平成22年 6月 4日（金） 17：00～21：00

会 場： 新阪急ホテル（大阪市北区芝田 1-1-35、Phone：06-6372-5101）

次 第： 1. 講演会 17：00～18：30 会場「花の間」

「無線通信の研究とその社会的責務」

大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工学専攻 教授 小牧省三 先生

「シリコンに魅せられた35年」

大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工学専攻 教授 谷口研二 先生

2. 総 会 18：30～19：00 会場「花の間」

3. 懇親会 19：00～21：00 会場「紫の間」

会 費： 学部卒業平成13年以降の方 7,000円

学部卒業平成12年以前の方 10,000円

会費は当日申し受けます。懇親会のみのご参加も歓迎いたします。

準備の都合上、出欠のご返事を同封のがきにて、来る 5月26日（水） までにお知らせ下さい。

表紙について

表紙の“滯電”は、熊谷信昭大阪大学元総長（通信・昭和28年旧制）の揮毫によるものです。写真は、改修工事によりリニューアルした電気系E1棟建物外観（南東側から撮影）です。詳しくは、8ページにある兒玉了祐教授（電気・昭和60年）による母校のニュース「電気系建物の改修工事」をご参照ください。

会長ごあいさつ

滞電会にご支援を



滞電会会長 白川 功
(電子・昭38)

会員諸兄におかれましてはご壮健でご活躍のこととお慶び申し上げます。2008年の総会で会長を仰せつかって以来、本会発展のため、役員、幹事、および事務局の皆様方共々、同窓会の発展のために精一杯知恵を絞ってきました。機会あるごとに申し上げておりますが、滞電会の発展に3つの要件があります。第1は母校の電気系教室の教育・研究・社会貢献の諸活動を支援すること、第2は会員各位にできる限りのbenefitを提供すること、第3は、滞電会運営を健全化すること、であります。以下に、滞電会がこの2年間にこれらの要件について、どのように活動してきたか、あるいは今後どのような方針で臨むか、について述べ、会員諸兄の更なるご理解とご支援をお願い致したいと存じます。

【I】電気系教室への支援

1901年(明治34年)5月、東京と大阪に官立高等工業学校が同時に誕生し、前者は現在の東京工業大学に、後者は現在の大阪大学工学部に発展しております。特に、後者におきましては、1908年2月、電気科が新設され、これがわが阪大電気系教室の母体となり、1昨年に創立100周年を迎え、これを記念して下記の事業を執り行いました。

○ 2008年11月4日、電気系教室と共催で、100年の歴史を振り返った「創立100周年記念講演会」を開催しました。当日は、U2-311教室に立見席を加えて200名を超える学生・教職員が集まり、盛大に行われました。

○ 2009年6月6日、リーガロイヤルホテルで、300名を超える会員諸兄のご臨席を仰ぎ、「創立100周年記念総会・祝賀会・講演会」を開催しました。この講演会では、元総長の熊谷信昭先生(通信・昭28旧)および(株)NTTドコモ社長の山田隆持氏(通信・昭46)に講師をお願いして、100周年記念にふさわしい未来を語るご講演を頂戴しました。引き続き行われた祝賀会では、現総長の鷲田清一先生、名誉教授の山中千代衛先生(電気・昭23)、および工学研究科長の馬場章夫先生から力強いお言葉を賜

わり、懇親会は名誉教授の櫻井良文先生(電気・昭18)の乾杯で始まり、会員相互の長年の旧交を温め合う歓談が盛り上がり、創立100周年にふさわしい祝賀会となりました。

滞電会恒例の「卒業・修了祝賀会」は、2008年度および2009年度は、ともに3月23日に千里阪急ホテルで開催しました。来賓として、2008度は、元総長の熊谷信昭先生および関西電力(株)常務取締役(当時)の藤野隆雄氏(通信・昭46)、2009年度は元総長の熊谷信昭先生および(株)NTTドコモ常務執行役員・関西支社長の西邑省三氏(電子・昭45)をお招きし、社会に巣立つ学生への激励のお言葉を賜りました。

また、母校の支援という観点で2008年度から新規に始めた、新入生をエンカレッジするための「祝賀講演会」は、2008年度は、5月2日15:00-17:00にU2-312で開催し、講師に名城大学教授の天野浩先生、滞電会東京支部長の池田博昌先生(通信・昭34)、阪大特任研究員の根岸和政先生をお招きし、大学で学ぶべきことおよび大学生生活の心構えについてお話を頂きました。2009年度は、5月2日15:00-17:00に大講義室U3-211で開催し、講師に電子情報工学科長の岸野文郎先生とマイクロソフト(株)代表執行役社長の樋口泰行氏(電子・昭55)をお招きし、自ら歩んだ道と勉学への誘いについて熱く語って頂きました。2010年度は4月30日15:00-17:00に大講義室U3-211で、講師に情報科学研究科教授の村上孝三先生(電子・昭46)と日商エレクトロニクス(株)取締役会長の辻孝夫氏(電子・昭48)をお迎えして開催する予定です。

【II】支部会員へのサービス

支部会員に対する最大のサービスは、支部総会と同時に開催される見学会・講演会を盛り上げることで、2009年度からは、多数の会員各位の支部総会への参加を促すため、開催日程をあらかじめ会報に載せることにしました。詳細につきましては<http://www.reidenkai.jp/>をご覧ください。以下に2009年度の各支部の活動報告と2010年度の開催予定についてご案内いたします。

○ 東京支部：4月24日（金）、メルパルク東京において、18：00－19：00に講演会（「量子暗号－量子力学と情報通信の融合」講師：阪大井上恭教授）、19：10－21：00に総会・懇親会を開催しました。また、2010年度総会は4月23日（金）18：00－21：00メルパルク東京で講演会・総会・懇親会を開催予定。講演は「モバイルの現状と今後」（講師：NTTドコモ山田隆持社長）の予定。

○ 北陸支部：6月13日（土）、第20回記念総会を宇奈月で開催し、支部長のお計らいで翌日、「黒四」、「黒部ダム」、「立山－黒部アルペンルート」を見学することができ、本部からは6名の先生方が参加し、記念総会にふさわしい催しとなりました。なお、2010年度総会は未定。

○ 中国支部：10月17日（土）、13：00広島駅新幹線口集合、見学会を、中国電力土居発電所、国土交通省温井ダムで行い、17：00－20：00総会・懇親会を小町クラブ（広島市中央区小町6－38）で開催。また、2010年度総会は10月16日（土）開催予定。

○ 東海支部：10月31日（土）、13：10刈谷駅集合、見学会を依佐見送信所記念館（IEEE Milestone認定）で行い、15：30－19：30 総会・懇親会をテンドラロッソバルヴィノ（フローラルガーデンよさみ内）で開催。また、2010年度総会は11月6日（土）開催予定

○ 九州支部：11月7日（土）、15：15ホテル日航ハウステンボス集合、見学会をハウステンボス 環境・省エネ施設で行い、19：00－21：00総会をホテル日航ハウステンボスで開催。また、2010年度総会は10月23日（土）開催予定。

○ 四国支部：11月21日（土）、13：00高知サンライズホテル集合、13：30－17：30総会・講演会（「IEEE Milestoneものがたり」講師：濬電会白川功会長）・懇親会を同ホテルで開催。また、2010年度総会は11月20日（土）開催予定。

これらの各支部の行事には、濬電会は、可能な最大数の会員各位を動員し、相互の情報交流の機会を創り、支部活動を活性化することを最大の目的として支援するつもりです。是非とも多数の会員が積極的に参加され、人脈拡充の機会としてご活用頂ければ幸いです。

〔Ⅲ〕 濬電会運営の健全化

濬電会費の納入者数をどのような手順で引き上げるか、という課題は濬電会運営の死活問題であります。濬電会役員とクラス委員の献身的な勧誘のご努力にもかかわらず、会員総数9,000名強の内、会費納入者数は、2007年度は2,270名、2008年度は2,093名、2009年度は1,959名、と年々減少しております。今後は、会員各位に会費4,000円に相当するbenefitを如何にして

創り出すか、について本部と支部の双方で真剣に解決策を練らなければならないと思っております。

一方、濬電会が3年毎に行っている名簿発行は根源的な会員サービスであります。個人情報保護法によって名簿発行にブレーキがかかっている昨今の世情にあっても、わが濬電会だけは、従来通りの名簿発行を断行し、会員各位の利便性を確保しております。既成方針通りに本年2010年度も名簿を発行しますので、会員各位のご理解とご支援を改めてお願い致す次第です。

また、恒例の見学会には、多数の若手会員も参加できる仕組みを導入しております。2008年度は11月7日、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンのコジエネ設備とアトラクションの制御設備を見学し、若手会員の参加を得ました。2009年度は11月13日（金）に、3月に開通した「阪神なんば線」を中心に、「阪神なんば線が結ぶ奈良・神戸」と題して、近鉄東生駒駅の車庫と運転指令室、阪神九条駅、九条変電所と甲子園球場内設備を見学しました。学生を含む43名の参加を得て、一般には見学できない施設をコースに含めたため、皆さんから大好評を頂きました。

新しい会員サービスとして、インターネットによる「告知板」である会員向けSNS（Social Network Service）を導入しました。これは、濬電会の本部・支部からの案内だけではなく、大学人事、企業人事、社会貢献、就職、等にかかわる速報、学会・業界ニュース、講演会・同窓会速報、個人会員からの要望、等の情報をも提供する媒体となるものです。この新たな仕組みによって不特定多数の会員相互の情報交換と連結感を強める仕掛けが構築できるものと確信しております。濬電会の新URLは<<http://www.reidenkai.jp/>>ですので、フルにご活用頂ければ幸いです。

私は、2010年度総会で、濬電会長を辞することになりますが、この機会に、特に、若い会員各位に申し上げたいことは、学生時代に築いた先生方や研究室との絆は、社会生活だけでなく、私生活においても今後ますます重要になるということです。さらに、学会や業界で活躍され、社会的に著名な諸先輩が濬電会に多数おられますので、濬電会の行事に参加し、これらの諸先輩との絆をも新たに形成・付加し、ユニークでかつ重厚な人脈を築くことによって、大学・企業あるいは学会・業界活動において実りある成果を挙げることができます。その意味で、濬電会行事に積極的に参加し、人脈を拡大し、知見を磨き、人格を高めて頂きたいと念願する次第です。

濬電会の更なる発展のため、会員諸兄には、引き続き、濬電会活動にご理解とご支援を賜りたく切にお願い申し上げます。

講演会からの話題

ヒューマンインタフェースを形に

大阪大学大学院情報科学研究科
マルチメディア工学専攻
教授
岸野文郎



例年、滯電会の総会では、現職最長老が講演することになっているのですが、今年度は100周年の記念すべき総会であるため、滯電会の重鎮である熊谷信昭元阪大総長（現兵庫県立大学長）、産業界で大活躍されている山田隆二NTTドコモ社長による特別講演が計画され、講演を免れたと安心していたところ、いちょう祭期間中に昨年から開催している新入生の学科入学・滯電会入会の祝賀会を兼ねた特別講演会で、マイクロソフト樋口社長の前座として話すようにとの依頼があり、最近3年間は電子情報工学科学科長を仰せつかっていることもあり、講演させていただきました。

折角の機会を与えていただき、多くの新入生が参加されたので、これまでの研究生活を振り返ることにし、まずは大学時代の研究として卒業研究は3安定回路構成法の研究、修士論文はトランジスタの高速スイッチング動作に関する研究からスタートしたことを、手書きの学会発表原稿も交えながら紹介しました。

修士課程修了後、NTT（当時は電電公社）の研究所に入り、全国自動化、積帯解消の音声電話からテレビ電話へ、の流れの中で、コストが高くても使ってもらえるための画像通信の高機能化の研究実用化に関わりました。具体的には、テレビ講義システム、多地点間テレビ会議、画像応答システムとそのためのビデオメモリ等の研究実用化であり、最後の方はパケットビデオ符号化、3次元テレビ電話の研究を進めていました。これらは主としてヒューマンインタフェース研究所において実施していました。

1989年（平成元年）には、けいはんな学研都市にあるATR（国際電気通信基礎技術研究所）に出向し、臨場感通信会議のプロジェクトを推進しました。遠隔

地の参加者が一堂に会する感覚を有するシステムの実現を目指し、技術的にはコンピュータビジョンとコンピュータグラフィックスを融合した新しい通信パラダイムの提案であり、1989年から国内外で研究が活発化してきたバーチャルリアリティの通信の適用例として注目されました。その後もこの分野には深く関わり、1996年に設立された日本バーチャルリアリティ学会では2006年から2年間、会長を務めました。

このプロジェクトは1996年に終了し、同じ時期に大学院重点化により専任専攻としてヒューマンインタフェース工学講座が創設され、招いていただきました。岸野研究室では、バーチャルリアリティ技術、マルチメディア技術を要素技術として、研究対象は室内における会議空間のみならず、自然環境を含むあらゆる環境を対象とすることで領域を拡大しました。更に、豊かな高度情報化社会を実現するためには、単なるハード、ソフト技術の進展だけではなく、情報そのもの（コンテンツ）が重要であり、かつ、これを使う立場のユーザの視点に立った研究が重要になるとの認識のもと、人間中心で人に優しいインタフェースの実現を目指して研究を進めました。具体的成果として、ブロックによる実世界指向の双方向インタフェースであるActiveCube、IllusionHoleと名付けた協調作業型3次元ディスプレイ、実写映像から作成する自律ビデオエージェントなどがあり、まさに「ヒューマンインタフェースを形に」の表題通りと言えます。また、グローバルCOEプログラム「アンビエント情報社会創成拠点」の事業推進担当者の一員として、アンビエントインタフェースの一例としてマルチディスプレイシステムなどの研究を進めています。対外的には、超高精細映像、立体映像、五感通信などの技術の進歩発展に資するために産学官の幅広い関係者が参集する超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム（URCF）の活動にも深く関わり、ATRで推進した臨場感通信がまた巡ってきたものと興味深く思っています。

このように研究活動を行い、成果を上げることができたのはスタッフ、学生、関係者の皆様のお陰であり、この場をお借りしてお礼申し上げます。

話 題

第6感を研ぎ澄まそう！ ～眼力を養う～

宇宙航空研究開発機構
信頼性評価委員
福 岡 勝
(電気・昭35)



卒業後50年を迎えることになり、ほぼ隠居生活になりつつある日々ですが、政治をはじめ、最近の世の中の出来事を見ていて、特に感じていることは人々の眼力の無さであります。「これは想定外のことだ」とか「これは〇〇的には問題ない」などという言葉聞くたびにそのことを痛感しております。50年の長きにわたり、品質と信頼性に関わる仕事をしてきて得た品質と信頼性の真髄は次のとおりであります。

・品質とは、『問題を先取りし、問題の発生を未然に防ぐ』

・信頼性とは、『予期せぬ事態になっても耐える』

これを実現していくときに最も重要な要素は予測や予知する力であります。この力は日常生活のあらゆる場面で必要不可欠なものです。これを養うための基本的な心構えが、他人に対する思いやり、母親の子供に対する愛情であり、最も大切なのは「感受性を磨くこと」であります。そのためには、理屈や知識だけでなく、事実・真実を見ることを励行し、本能としての勘(第六感)を養うことが、人間としての重要な要素の1つであることに気が付き、この第6感を研ぎ澄ますことが眼力を養うことであることが分かりました。そこで、感受性を磨くために、日頃の生活における基本動作として【観】【看】【鑑】【関】【感】【勘】を心掛けてきたのでこれを紹介します。

人間の五感には「視」・「聴」・「味」・「臭」・「触」ですが、昔から「百聞一見にしかず」と言われているように我々の日常生活では視覚の働きが約70%にも達しています。「見る」という言葉は実に広い世界をもっていて、見る・診る・観る・看る・眺るという言葉があるとともに、見方、考え方という意味もあります。これは、見方が変われば考え方もある、また、見方が考え

方を変えてしまうということであり、見方を間違えると全くムダなことをしているのに気がつかないということになります。

まず【観】について。これは物事を観察するというときの「観」で、自分自身が自分の目で現場や現象をじっくり、注意深く、細かくみるという意味であります。そうすることにより「真実・事実をみる」ということになります。一方、「先入観」はまちがった見方の代表例で、文字どおり先にもっていた知識が見るものを偏ったものとして認識してしまい、「真実・事実を見る」ことを忘れさせてしまいます。したがって、このことを強く自覚する必要がある、自覚している人と自覚していない人では「ものの見方」が全く違うのは当然のことです。

次は【看】。これは看護婦の「看」なので、相手の様子や変化をじっくりと追跡するという意味です。病人の病状がどのように変化しているか、快方に向かっているのか、悪化する傾向にあるのか、など逐一つかむことにより、相手にどのような世話をするか、相手の身になって処方を考えるということ。よって、他人に対して「思いやりのある見方」ができるようになるのです。

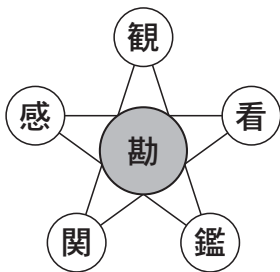
さて、このように「観」による「真実・事実をみる」から得たものや、「看」による「思いやりのある見方」から集められたものを、単なるデータとして捉えただけではあまり役に立ちません。データを積み上げただけで満足しては、現状を改善し、打破することはできません。

そこで必要なのが【鑑】です。これは鑑賞の「鑑」で、音楽や絵画などの芸術作品の美的価値を理解し、味わうことですから、集ったデータを科学的手段により分析し、それぞれのデータの価値を判断し、取捨選択することを意味します。これにより定量的なデータをベースにした意思決定ができるようになります。

しかし、数多くのデータも単発では不十分なものとなってしまいますので、【関】が必要となります。「関係」・「関連」の「関」にあすから、集ったデータを関連づけ、または相関関係をよく見極めて総合化することです。総合化されたデータを理解することにより、大局的見地に立った判断ができ、かつ細部にわたり適切な意思決定ができるようになります。

このように進んできても、仕事をし、意思決定する

のは人間ですから、人間の感情を絶対に無視するわけにはいきません。そこで5番目に【感】が必要となります。人間の心の動きを掌握することなので大変難しいことですが最も大切なことです。仕事がうまくいかなかったり、人間関係のもつれなどによる「悩み」、過度の昂ぶりからくる「昂奮」あるいは「緊張」、相手をみくびる、バカにする「態度」などは一種の人間の弱点でもあります。また、感情というのは「好き、嫌い」でもあり、人間は嫌いなことには大いに拒否反応を示しますので、人間の心の動きをうまくつかまえて制御していくことが、人を動かすコツであります。これに加えて、正しい行動ができる心構えと眼力がヒューマンエラーを減らすためにも不可欠の要素であります。



- 【観】：自分の目で現象や現場をじっくり、注意深く、細かく
 - ・ 真実・事実を見る
- 【看】：相手の様子や現象の変化をじっくりと追跡
 - ・ 思いやりのある見方
- 【鑑】：データを科学的手段で分析、データの取捨選択
 - ・ 定量的なデータに基づいた意思決定
- 【関】：データを関連づけ、相互関係をよく見極め総合化
 - ・ 大局の見地に立った判断、細部にわたる適切な意思決定
- 【感】：人間は感情の動物、心の動きを掌握
 - ・ 感情は「好き・嫌い」

さて、このように5つの「カン」の上に立てば【勘】を働かせる余裕が出てきて、タイミングよく「勘」が働くものです。もともと「勘」とは判断力に通じ、よい判断力は物事を見極めることであり、【眼力】であります。

「眼力」は「見えぬ姿を見、聞こえぬ声を聞く」ということでありますが、これは難しいことではありません。日常生活の中で本能として誰もが自然にやっていることで、何かを見て美しいとか、あでやかとかを

感じ、かわいそうだと見えたり、よくやったと誇りに思ったりすることがそれです。すなわち、「ものを見たら意味がわかる」ということで、これが「眼力」です。頼もしい人、信用できる人、やさしい人という意味も一見してわかるというのが「眼力」の基本であります。5つの「カン」を実行し、「よいことに眼をつけて素直に見習う」ことを継続して励行すれば、必ず「眼力」は養われます。

「眼力」の最高の事例は、古いところではプロ野球元巨人軍の川上選手の「ボールの縫目が見える」、最近では、大リーガー、イチローの「ボールが揺れて見える」でしょう。いずれも、長期間の血のにじむ猛訓練と厳しい心の修養の結果から得られた極めて高度な眼力（超能力に近い）だと思います。現在のように知識レベルのみが向上していく世の中では、屁理屈や言い訳が多く利口にはなりますが、工夫や知恵が疎かになり、予測や予知する力が養われず、ましてや眼力が発揮できるわけがありません。それは、知識が先入観となり、先入観をもつと真実・事実が見えなくなるからであります。

人間力の基礎を成す力としての眼力を磨くことにより、地球環境をはじめとする難題の多い21世紀を明るく、楽しく、活気溢れる時勢となることを心から祈念しております。

話 題

卒業から30年を経て

マイクロソフト株式会社
代表執行役社長
樋口 泰行
(電気・昭55)



1980年に工学部を卒業してから、早くも30年目の春を迎えております。卒業後は、松下電器産業でお世話になり、日本HPやダイエーの社長を務めた後、現在は縁あってマイクロソフト日本法人の代表を務めております。

近年、阪大OBとして、様々なイベントにお招きいただくことも増えてきており、昨年2009年は、まさに母校との強い結びつきを感じることでできた一年でした。総長とのリレーションがきっかけで、3月には卒業式の場でスピーチという大役を司り、続く5月には工学部の新入生向けに講演をさせていただきました。長い年月を経た今、母校に帰るきっかけを、このような形で頂戴していることを大変光栄に思っております。

マイクロソフトにとりましても、2009年は多くの新製品／サービスを市場投入させていただいた、記憶に残る一年でした。その中核をなすのが、10月に発売を開始したWindows 7です。幅広い市場の声を開発工

程において反映した結果、大変クオリティの高い製品に仕上がり、お客様からは“史上最高のOS”と高いご評価をいただいております。私個人としても、新OSの販売に立ち会えたことは感慨深く、仕事人生で記念すべき出来事となりました。

そんな中、今年1月には、大阪大学様とMicrosoftソフトウェアの包括ライセンス契約を結ばせていただきました。こちらは、大学に在籍されている教職員6,910人、学生23,784人を対象とした包括契約となり、大学側が管理する全てのPCに、弊社Windows OSの最新版へのバージョンアップや、Office製品のインストールを可能にするものです。包括契約のメリットとしましては、①コストダウンの実現 ②ソフトウェアの管理の簡素化 ③最新のバージョン利用・教育がいつでも可能 ④学生個人用PCにも同様の権利が付与され、教職員個人所有のPCにも1人1台同様の権利が付与される、などが挙げられます。

マイクロソフトのミッションは、『世界中のすべての人々とビジネスの持つ可能性を、最大限に引き出すための支援をすること』です。まさに、ソフトウェアの力で、本学で勉強に励む学生ならびに教鞭を執られる先生方のご支援をさせていただきたいと思っております。その強い思いが今回の包括契約につながりました。

これからも、ソフトウェアの可能性を信じ、若干ながらも、大学の発展にICTの観点で貢献できるよう、本学との連携を深めていきたいと考えております。

母校のニュース

大阪大学電気系教室創立100周年記念式典

昨年の会報「滯電」No.30でもお伝えしましたように、大阪大学電気系教室は、1908年（明治41年）に大阪高等工業学校に電気科が設置されてから数え、2008年（平成20年）に創立100周年を迎えました。これを記念して、2009年（平成21年）6月6日11:30から、大阪市中之島のリーガロイヤルホテル・山楽の間に於いて、大阪大学電気系教室100周年記念式典が開催されました。式典に先立って滯電会総会が行われた後、第1部では講演会が、第2部では記念祝賀会が行われました。式典には、来賓・招待者、現教員、元教官、卒業生、総勢303名もの方々にご出席頂き、大変盛大な会となりました。

第1部の記念講演会では、電気電子情報工学専攻専攻長の河崎善一郎教授の司会のもと、大阪大学同窓会連合会会長・大阪大学元総長・名誉教授・兵庫県立大学学長の熊谷信昭先生（通信・昭28日）、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ代表取締役社長の山田隆持様（通信・昭46）のお二人にご講演頂きました。熊谷先生からは、「21世紀における新しい科学技術の展開をめざして」と題して、大変広い視点に立って、21世紀に日本の科学技術のあるべき姿を見据え、現在第一線で研究・開発・教育に当たられている研究者・技術者・教員の皆さんに熱いエールを送って頂きました。また、山田様からは、「モバイルの歴史と今後の進化」と題して、情報通信技術を牽引してきた携帯電話事業の歴史を振り返り、モバイル通信の未来像をご紹介頂きました。

第1部と第2部の合間では、総勢300余名で記念写真の撮影が行われました。大人数での整列は、なかなか大変な作業でしたが、どうにか記念の集合写真を残すことができました。

第2部では、谷口研二教授（電子・昭46）の司会のもと、記念祝賀会が行われました。祝賀会では、始めに、大阪大学総長の鷲田清一先生にご祝辞を頂戴しました。その後、名誉教授山中千代衛先生（電気・昭23）によるご挨拶、工学研究科長馬場章夫先生によるご祝辞に引き続き、名誉教授櫻井良文先生（電気・昭18）のご発声により乾杯しました。歓談の後、滯電会会長・大阪大学名誉教授・兵庫県立大学教授の白川功先生（電子・昭38）の音頭により万歳三唱をして、最

後に栖原敏明教授の閉会の辞にて締めとなりました。

100周年という大きな節目におきまして、かくも盛大な会が開催できましたことは、大変な喜びであり、ご多忙の中ご参列頂きました皆さまには厚く御礼を申し上げます。また、会の準備に奔走して頂いた教職員の皆様に感謝申し上げます。

（河崎善一郎（通信・昭48）記）

岸野文郎教授 最終講義

情報科学研究科マルチメディア工学専攻教授・岸野文郎先生は、平成22年3月31日をもって定年退職されることとなりました。ご退職にあたり、平成22年1月29日（金）午後3時30分より、大阪大学コンベンションセンター2階会議室にて、最終講義が行われました。当日は、情報科学研究科、工学部電子情報工学科など学内の教職員、学生はもとより、学外の多くのゆかりのある方々が聴講に來られ、立ち見も出る盛況の中、講義が行われました。藤原 融教授（情報科学研究科マルチメディア工学専攻 専攻長）司会のもと、講義に先立って、岸野先生のご略歴が紹介されました。

「人に優しいヒューマンインタフェースを目指して」と題された講義では、岸野先生が終始一貫して取り組んでこられた、ヒューマンインタフェースに関する研究・開発の内容が紹介されました。複数の人が立体的に浮かんで見える像を見ることが出来るイリュージョンホールを始めとして、それまでには無い、斬新なヒューマンインタフェースデバイスや手法の数々についてご説明して頂きました。

また、日本バーチャルリアリティ学会会長、ヒューマンインタフェース学会副会長、映像情報メディア学会副会長、電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）委員長を歴任され国際的にも活躍された岸野先生の学会活動の一端も紹介されました。

講義の最後には、岸野先生が故郷の川でアユの友釣りをされた経験になぞらえて、「学生を指導する際には、あまり強い力で引っ張るのではなく、緩やかに誘導しつつ、自由に泳がせるのがよい」と、教育に対する持論もご披露されました。

講義終了後、先生の御指導・御活躍に感謝の意を込め指導学生の尾崎麻耶さん、吉田愛さんから花束と記

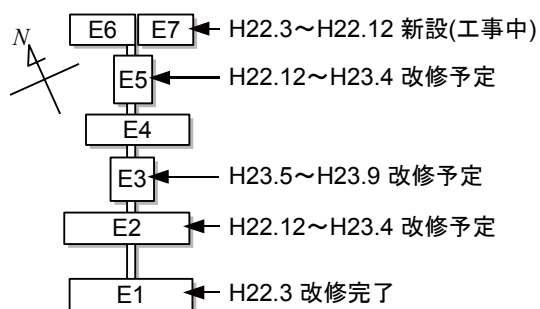


念品が贈呈され、会場からの大きな拍手の中、先生はご退席されました。その後開催された懇親会では、総長を始め多くの方々に囲まれ、賑やかなご歓談が続きました。

(伊藤雄一(大阪大学 ウェブデザインユニット)記)

電気系建物の改修工事

大阪万博の前年にあたる1969年に大阪大学工学部が吹田キャンパスに移転してから、本年で41年目を迎えます。建物の多くが老朽化し、また、古い耐震基準で建設されている為、大地震が発生した場合には、大きな被害の発生が懸念される状態となっています。このような状態を改善する為、工学部では、順次、耐震改修工事が行われています。工事期間中の講義室の確保や、研究室移転先の確保が困難であることから、一斉に多くの建物を改修することはできず、工事は少しずつ



各建物の改修工事予定

つ進められています。

平成21年度からは電気系の改修工事が始まりました。まず、E1棟の改修工事から開始され、平成22年3月に完成しました。同3月からは、E6棟の隣にE7棟(6階建)の建設が進められています。E7棟は、平成22年12月頃の完成予定で、E4棟に代わる研究棟となる予定です。平成23年度春頃からは、E3棟も改修工事が行われる予定ですので、工事の期間中は、電気系事務室の向かいにある滞電会事務局も一時移転の予定です。また、これまでの何度かの組織変更によって、同じ組織の居室が離れた建物に配置されている状況となってしまっています。今回の改修工事を機に、同じ組織の居室を1か所に集約する、ゾーンニングが行われる予定です。

E1棟は、いち早く工事が完了し、真新しくなった教室で4月から講義や学生実験が行われています。表紙には、綺麗になった外観の写真が掲載されていますので、是非ご覧ください。外観では分かりにくいですが、耐震補強が行われ、耐震性は大きく改善されています。E1-111室(西側1Fの学生実験室)等には、耐震補強の為の鉄骨ブレース(鉄骨製の枠)が設置されています。内装や各種設備も改装され、機能的にも大きく改善されています。夏暑く、冬寒いE1棟の教室で日々学ばれたご記憶をお持ちの方が多いと思われませんが、全ての講義室にエアコンが設置され、講義環境の改善が図られています。また、ピロティには多目的トイレが新設されています。今後の改修工事で、エレベータの新設やスロープの設置等が予定されており、身体に障害のある方にも使いやすい施設となるよう整備されつつあります。

電気系の改修工事はまだまだ始まったばかりで、平成23年度まで工事が行われる予定です。工事期間中は、教職員・学生・来訪者の皆様には多大なご迷惑とご不便をお掛けいたしますが、ご理解・ご協力をお願い致します。

(大阪大学工学研究科 教授 兒玉了祐
(電気・昭60・M昭62・博平2)記)



リニューアルしたメモリアルホール (E1-115)

新研究室紹介

工学研究科
電気電子システム工学部門
システム・制御工学講座
インテリジェントシステム領域



教授 高井 重昌

本領域の歴史は、大阪大学工学部創始百年史によれば、昭和8年大阪帝国大学工学部発足と同時に設置された電気第二講座まで遡ることができる。設置当初、望月重雄教授が担当され、その後、昭和11年から熊谷三郎教授、昭和16年から再び望月重雄教授、昭和19年から七里義雄教授、昭和24年から吹田徳雄教授、そして、昭和34年から西村正太郎教授が担当された。西村教授の就任に伴い、講座名称が電気機器・自動制御と改められ、自動制御工学に関する研究の流れは現在にまで続いている。昭和58年からは藤井克彦教授が担当され、講座名称が制御工学講座となり、主に生体システムに関する先駆的研究が行われた。さらに、平成7年より熊谷貞俊教授が担当され、離散事象システム、自律分散システムなど、システム制御分野の先端的な研究が行われてきた。平成17年の改組により、本領域は電気電子情報工学専攻の電気電子システム工学部門に属することとなった。その際、名称もインテリジェントコントロール領域と改められ、その後、現名称であるインテリジェントシステム領域に再度改められている。平成19年に熊谷教授が退職され、平成21年より、高井重昌が担当となり、現在に至っている。現在の研究室常勤教員は、高井のほか、宮本俊幸准教授の合計2名である。

近年、製造、流通などあらゆる場面でコスト削減が叫ばれており、システムの高効率化を実現するため、システム最適化に関する研究の重要性がますます高まっている。またその一方で、安全・高信頼も、システムにおける重要なファクタとなってきている。例えば、輸送機器や大規模プラントなどでは、制御系の故障や不具合が人々の安全を脅かすことになりかねず、そのようなセーフティクリティカルなシステムの安全性、高信頼性をいかに保証するかも、システム制御分野の重要な課題となっている。そこで、本領域では、システムの最適化手法に加え、仕様通りにシステムが動作することを保証する高信頼な制御系設計手法、またシステムの設計、開発において誤りがないかを確認するための検証手法などの確立に取り組んでいる。現在の多くの制御システムは、組込み制御のようにコンピュータを中心に構成されているため、特にシステムの離散的な側面に注目し、離散事象・ハイブリッドシステム論や分散システム論など数理的アプローチに基づいた研究を行っている。具体的な研究テーマは以下のとおりである。

- ・オートマトン、ペトリネットおよびそれらの拡張モデルを用いた離散事象・ハイブリッドシステムの解析・制御に関する理論研究
- ・形式モデルを用いた分散システムの形式検証技術の開発
- ・UMLを用いた分散ソフトウェアの設計開発支援システムの構築
- ・知的移動体システムの制御・スケジューリング手法の開発
- ・マルチカーエレベータの群管理アルゴリズムの開発

本領域には、過去に担当された教授の先生方が、システム制御に関する先進的な研究テーマに取り組んでこられた歴史がある。今後もそのような気風を引き継ぎ、システム制御の新領域へ挑戦していく所存である。濠電会会員の皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

教員紹介

電気電子システム工学部門 先進電磁エネルギー工学講座 高強度レーザー工学領域



准教授 羽原 英明

電気電子システム工学部門、先進電磁エネルギー工学講座・高強度レーザー工学領域、准教授の羽原英明（はばらひであき）と申します。レーザー核融合に関わる高強度レーザーと物質との相互作用基礎及びその応用に関する研究を行っております。昨年度一年間、滯電会役員と致しまして会計幹事補佐を勤めさせていただきました。また先の電気系教室100周年記念会に於きましても実行委員・会計担当としてお手伝いまた参加させていただきました。元々阪大の理学部・理学研究科出身で、2004年から工学部の方にお世話になっております。理学部はアロハシャツを着ているような先生も多く、また個人商店的な感じの所でしたので、こちらの組織的・大企業的な雰囲気に同じ大学でもこんなに違うのか、と非常に面白く感じたのを思い出します。だからこそ滯電会のような大規模な同窓会組織が非常に活発に活動しているのだと思いますし、また私自身も100周年記念会や役員会に参加させて頂いたのですが、まるで卒業生のように先生方や緒先輩方との距離が非常に近く感じられ、とても楽しくやらせて頂いております。まだ役員の方もさらに1年勤めさせていただきますし、今後とも微力ながらお手伝いさせていただきますので、皆様に於きましても今後とも滯電会の活動に対しご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

情報科学研究科 情報システム工学専攻 情報システム構成学講座



准教授 橋本 昌宜

情報科学研究科、情報システム工学専攻、情報システム構成学講座を尾上孝雄教授と担当しております准教授の橋本昌宜（はしもとまさのり）と申します。2004年4月の着任以来、VLSI（大規模集積回路）の設計技術を中心に、ナノスケールVLSI内部の動作観測や解析、電源電圧が0.4Vを下回る超低電圧動作回路の実用性向上、などの問題に取り組んで参りました。特に、高速動作が要求される微細化の進んだVLSIにおいて、その性能向上を妨げている製造ばらつきや環境変動、さらには経年劣化の問題に取り組み、現在それらの問題を自律的に解決するVLSIの実現にむけて研究を進めております。上記問題のセンシング、センシング結果の解析、ならびに解析結果を基に自己調整する機構それぞれについて、やる気のある学生達と楽しく研究活動を進めております。尾上教授をはじめ、VLSIの応用やアプリケーションに強い先生方とともに研究室を運営することで、視野を広げ、また狭い研究分野にとどまってしまうことなく研究活動ができることは大変な幸せであり、また学生の教育指導にも役立っております。今後は将来の集積デバイスのあり方についても考えて参りたいと思いますので、産業界、学界を含め幅広い分野でご活躍の皆様より、ご意見を頂戴して参りたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

退職された先生方の近況

三間 罔興（光産業創成大学院大学特任教授）

平成21年3月31日、大阪大学の職を辞して慌ただしく身辺整理をしている間に10ヶ月が経ちました。退職に際し、最終講義、退職祝賀会では多くのご好意をいただき、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

退職後、光産業創成大学の特任教授としてレーザー核融合学長プロジェクト（加藤義章学長）に参加する傍ら、旧友のManuel Perladoが所長をしておりますマドリッド工科大学（Universidad Politecnica de Madrid）のInstitute de Fusion Nuclearの客員教授として招聘され、昨年6月～7月と11月～12月の2度に渡り3ヶ月余りマドリッドに滞在しました。

スペインもリーマンショック以来深刻な不況に見舞われており、財政赤字と10%を越す失業率への対策でサバテロ首相は厳しい政権運営を迫られております。特に、北アフリカからの移民の流入が失業問題を一層深刻にしております。その影響もありビザの取得は大変困難でした。日本人の場合、アカデミア、留学生や日本料理の板前など特殊な職業以外はビザ申請時の審査ではねられることが多いようです。入国した後も外国人登録がさらに大変で、地区の警察署で登録申請しますが、建物の外まで待ち行列ができており、猛暑の中で長時間にわたり待たされてきました。幸い、私の場合、大学本部の国際交流部の担当者がコネ？を使って、待ち行列を飛ばして手続きをしてくれましたが、行列の横をすり抜けるときは多少罪悪感を持ちました。

マドリッドには、マドリッド工科大学の他、コンプルデンシャル大学、オートノマ大学の三大大学が有ります。それぞれ特徴の有る大学で、私の滞在するマドリッド工科大学は産業科学、原子力工学、航空工学、情報科学でスペインの学術をリードしています。同大学には3つのメインキャンパスが有ります。マドリッド市の東部の学研地区に大学本部や宇宙機械工学スクールが有り、私の所属する核融合研究所や産業科学スクールは市の中央部、情報科学スクールは市の南部に有ります。現在、博士課程の学生や博士研究員と共同研究をしております。また、オートノマ大学とも成り行きで共同研究を開始しました。この大学は理学と文系が強くて、政治家や物理学、生化学で有名な研究者を排出しています。共同研究では、大学附置の全国共同利用施設材料分析センターの Cockroft 型タンデムイオン加速器を利用しております。高エネルギー分解かつ低エミッタンスの10MeV/Nucleonまでの多様なイオンビームを提供することが可能で、RBSA（Rutherford Back Scattering Analysis）、PIXE（Particle Induced X-ray Emission）、PIGE（Proton Induced Gamma Emission）など各種の原子核散乱を用いたナノスケールの材料研究分析研究が進んでいます。マドリッド工科大学のRaquel Ganzalez女史がイオンビーム材料研究の専門家、材料分析へのレーザーイオンビーム利用可能性を探る一環として上記のイオン加速器を使った二次電池の計測で共同研究を開始しました。慣れないことですが結構楽しんでおります。一方、本職の核融合研究では、ヨーロッパのHiPERプロジェクトに関連して爆縮プラズマからの高エネルギーX線と固体の相互作用につき、Perlado教授のグループと共同を開始しました。いずれの研究も開始したばかりでどのように収束できるか不明ですが、ヨーロッパの生活を楽しみつつ成果をあげることが出来ればと思っております。これからも時々マドリッドで滞在いたしますので、スペインにこられる折には声をかけていただければ幸いです。

西原 功修（基礎工電気・昭42、M44）

平成20年3月の退職後も仕事を続けたいと思っておりましたが、幸いその機会に恵まれ、毎日研究生生活を楽しんでいます。月・火曜日は、浜松ホトニクス株式会社・開発本部・大出力レーザー開発グループ（以下浜ホトと記す）の顧問として、水・木曜日は、大阪大学・レーザーエネルギー学研究センター（レーザー研）の特任研究員として、金曜日は、(株)キャトルアイ・サイエンス（キャトルアイ）の上級技術顧問として働いています。

浜ホトでの顧問は、当時の光産業創成大学院大学の学長であった中井貞雄先生（元レーザー研センター長）のご紹介によるものであり、レーザープラズマの研究を継続して行う幸運に恵まれました。計算機シミュレーションや

実験提案だけでなく、真空ハンドブックを片手にチェンバーの設計とか計測のためのパラメータ設計にも従事でき、レーザー実験と深く関わったレーザー研での経験を生かすことが出来ています。この稿が出版されるころには、提案した最初の実験が行われていると思いますが、その中には、約10年ぶりに米国リバモア国立研究所から帰国した高木勝氏（元レーザー研）を浜ホトに迎えターゲットにも工夫を加えるなど幾つかのチャレンジングな試みが含まれており、不安とともにワクワクした日々をすごしています。

レーザー研での特任研究員としては、退職前の5年間関わっていた次世代半導体プロセス用の波長13.5ナノメートルの極端紫外（EUV）リソグラフィ光源の最適条件を求める研究を行っています。この研究は、コマツ製作所とウシオ電機がEUV（極端紫外線露光システム技術開発機構）を通してレーザー研と（財）レーザー技術総合研究所に委託した研究であり、両社はそれぞれレーザー生成、あるいは放電生成スズプラズマを用いた光源開発に凌ぎを削っており、平成23年度の実用化およびその後の発展への指針を出したいと研究に励んでいます。

キャトルアイは、私の研究グループで博士号を取得した上島豊さんが約4年前に創業したソフトウェアベンチャーですが、科学技術分野での大規模計算機シミュレーションや大規模データベースなど常に変化するデータを容易に扱えるなど、大学の研究にも適しているミドルウェアRCM（R&D Chain Management）を製作・販売しています。直接指導した院生2名と阪大卒1名が創業した会社であり、その発展に力添えできるよう意気込んでいます。

その他、以前から行っていたリヒトマイヤー・メシュコフ不安定性のレビュー論文を共同研究者の協力を得てThe Philosophical Transactions of Royal Societyにまとめることが出来ました。この不安定性は渦のダイナミクス、レーザー核融合だけでなく星の生成などと関係することからも話題になっているようです。

卒業生の近況

安積 健（電気・平15、電磁M・平17）

月日が経つのは早いもので、私が電子情報エネルギー工学専攻を修了し、大日本印刷株式会社に就職してから、間もなく5年が経とうとしています。昨今の不況の影響を受けてか、やるべき仕事に追われているような毎日で、時折仕事を投げ出してしまいたいと思うこともあります。その反面、充実した日々を送らせて頂いています。

ところで、皆さんは大日本印刷が何をしている会社なのかご存知でしょうか。恥ずかしながら、私は入社するまで知りませんでした（適当に就職先を決めたため）。会社名にもなっている印刷業だけではなく、光学フィルム、カラーフィルタ、ICカード、建材やプラスチックボトルなど、事業は多岐に渡っており、最近では太陽電池用の部材にも参入しています。

入社後、私はディスプレイ製品研究所という部署に配属になり、リアプロジェクションTV（現在では家電量販店で見ることなくなりましたが）の光学レンズの開発に携わりました。2年目からは液晶パネルの主要部品である、カラーフィルタの製造部門の技術部へと異動となり、現在まで同部署で働いています。

部署内では、透明導電膜であるITO（Indium Tin Oxide）の成膜工程を担当しています。ITO膜は液晶パネルの電極として使用されており、現在普及している液晶テレビにとって無くてはならないものです。そのITO成膜工程の製造プロセス技術改良や品質管理、製造設備の保守などを業務としています。花形である研究開発部門とはほど遠い部署であり、異動となった当初は嫌で仕方がなかったものです。ただ、現在の自分の業務が自社の業績と直結していることを意識してからは、非常にやりがいのある仕事だと思うようになりました。

大学で主に学んだのは光学だったため、現在の業務内容は分野としてはそれほど近いものではありません。しかし、大学での研究生活で培った、対処すべき課題に対して考察し、計画を立て、対処するという姿勢に関しては、社会人となった今でも大変役に立っています。私は社会人としてまだまだ未熟であり、時に失敗してそれを痛感することもあります。今後経験を積むことで成長していきたいと思っています。（大日本印刷株式会社）

大田 剛史（通信・平16）

最近、何かに感動したことはありますか。

今から6年前のM1の秋、人生の岐路を選択する決断を迫られた。そんな折、ふと生きているってどういうことだろうと考えた。自分なりに悩み抜いた末、たどりついたひとつの結論は多くの人と出会い、共に喜んだり、大声を出して笑ったり、時に涙を流して悲しんだり、人の生き方に勇気づけられたりするなど、人は心が揺れ動くときにこそ生きていることを実感するのではないかということだった。それが自分の場合、身近にあったのはブラウン管の中に映る人の姿だった。

今、自分は人の心を動かす仕事をしている。

日本放送協会（NHK）に就職して4年になる。入局後、1ヶ月間の東京研修を経て、福井放送局の技術部に赴任した。福井放送局は従業員が100人程度の小規模の放送局で、そのうち技術部には約25人在籍している。限られた人数でテレビ局の技術職が担う全ての業務を遂行しなければならないため、専門性の高いひとつの業務を集中して担当するのではなく、ひとりひとりがさまざまな業務をこなしている。その中で、私が現在担当しているのは、「番組制作」、「番組送出」、「緊急報道」、「システム設計・開発」の4分野である。「番組制作」業務はカメラを担いで地元の魅力的な人々やモノを撮影したり、コンサートなどの音声を担当したりするなど、NHKの商品であるソフトを制作している。「番組送出」業務では365日、24時間放送を継続するために4交代制のシフト勤務を組んで、放送機器の運用・保守を行っている。「緊急報道」業務は国民の財産・生命を守るために事件や災害などの有事の際に迅速かつ正確に情報を伝えられる体制を整えている。「システム設計・開発」業務は放送に関する新規技術を導入する際にシステムの設計・開発を行っている。

平成21年1月、東大阪の町工場が作ったとして世間に広く知られている小型衛星「まいど1号」が打ち上げられたことをニュースで知った。搭載されているセンサは私が所属していた研究室で開発されたものである。センサの開発は私が直接携わっていたわけではないが、同センサの観測結果が一定の成果を得られたことを聞いて思わず嬉しくなった。ひとつのニュースはある人の心を温めることができる大きな力を持っている。研究室で培った知識やノウハウが、人の心を元気づけるために活かせることは素晴らしいことであると実感して、日々の業務に取り組んでいきたいと考えている。

（日本放送協会）

池田 茂史（電子・平18）

2008年春に卒業してRohmに入社してから2年が経ちました。まだまだ若手ですが、この2年間で技術発表会や部署の異動など多くを経験しました。

大学・大学院では栖原研に所属しておりレーザ・ダイオードの研究をしていました。入社後も光学関係の仕事がしたかったのでプロジェクト希望調査でも自分のやりたいことを伝え、研究開発の窒化物系のレーザ・ダイオードプロジェクトに配属されました。こうして私の社会人生活が始まりました。研究室のときは扱う材料も違い、さらに結晶成長を担当するところになり研究室でプロセスを主にやっていた私には未知の分野でした。最初は仕事を覚えることで精一杯でしたが、慣れていくうちに自分がやりたい実験できるようになりました。研究開発では、基礎実験から自分のやりたい実験などある程度自由度があり、知識を増やすいい機会となりました。その研究の成果を役員や本部長の前での技術発表会で発表する機会も得ることができ、プレゼンテーションが苦手だった私は自信をもつことができました。

2年目の秋には商品開発のある製造部へと異動になりました。商品開発はサンプル提出のスペンが短いため、期限が近づくと夜遅くまで仕事をすることが増えました。同時にいくつもの仕事をこなさないといけない上、覚えることも多かったため最初は戸惑いもしましたが今では自分の仕事の能率が上がってきたと感じています。

この会社で私は仲間恵まれていると思います。同じプロジェクトのメンバーは年齢も近いので仲がよく、お互い支えあっています。お酒を飲みながら仕事の相談などもします。仕事が忙しくて同じ目標に向かってがんばる仲間がいることは大きな支えとなります。

まだまだ苦勞することは多いと思いますが、多くのことを経験し、自分を大きく成長させられるように日々がんばっていかうと思います。

(ローム株)

小島 智幸 (情報・平15)

今回の原稿作成依頼を頂いたときに、会社生活を振り返ってみると、トヨタ自動車(以下弊社)に入社して7年が経過していることに気が付きました。ここからは私の近況を書かせて頂きたいと思います。

入社した直後、元町工場 品質管理部に配属されました。技術部しか知らなかった私は、「工場では何をすれば良いのだろう」と悩んだことを覚えています。しかし、幼いころから、自動車の助手席に乗っているのが楽しく、また捨てられた電気製品を拾ってきては感電しながら分解して遊んでいた私にとっては、自動車が作られている現場で働ける環境は最高でした(分解した電気製品の基板にはんだ付けされている「黒い石」が何なのかを知りたくて、どうやって動いているのかを知りたくて、情報システム工学科を希望しました。現在の自動車はたくさんの「黒い石」で制御されているため、大学で学んだことは非常に役立っています)。元町工場勤務の5年間で、主に「X-BODY」と「超えていくブランド」の立ち上げを担当し、最初の完成車両の後ろ姿を見送るときは、何度も泣きそうになるのを我慢しました。工場から配車された完成車両は直ぐ販売店へと運ばれるため、工場の品質管理部は「トヨタ品質の最後の砦」であり、上司からも「品質に関しては鬼になれ(鬼になって一切の妥協を許すな。)」と言われ続けたのを覚えています。すべての品質問題を工場の品質管理部で発見することはできませんが、現在の弊社が置かれた状況は非常に悔しい限りです。

元町工場では何車種かの立ち上げを担当しているうちに、「車両はどのように開発されているのか」ということを知りたくなり、「静岡県裾野市にある東富士研究所の実験部に行って勉強したい」と上司面談で訴えました。色々な偶然と幸運にも恵まれ、2009年1月付けで第1車両実験部への異動が決定し、現在はLexus GSとクラウン系のVDIM/VSC/TRC/ABSの性能開発に携わって2年目です。ここでは「この車両はこんな性能にしたい」というこだわりを忘れないこと、お客様も含めた後工程にご迷惑をかけないように、そして工場の品質管理部の経験を活かしたさらなる品質の造り込みを、性能開発と同時に実施している毎日です。

長い近況報告となってしまいましたが、自分は「何がしたいのか」、「どうしたいのか」、「お客様目線で、どこにこだわるのか」を忘れることなく、性能開発を続けていきたいと思っております。

最後に、この原稿をお読みの方の中にも、弊社製の自動車をお乗りの方がいらっしゃるかと存じます。この度は複数のモデルで多くのリコールを実施することになり、ご心配とご迷惑をおかけしていること、心からお詫び申し上げます。

(トヨタ自動車株式会社 第1車両実験部)

個人情報変更・情報提供のお願い

ご住所・ご勤務先などが変更になられた方は、事務局まで随時ご連絡くださるようお願いいたします。変更のご連絡は同封いたしました総会の出欠届、平成19年12月に発行いたしました「滯電会会員名簿」に綴じ込みの「訂正カード」、またはファックス、電子メールでも結構です。また、滯電会ホームページ(<http://www.reidenkai.jp/>)の「個人情報の修正」からも変更が可能です。

会員の受賞の情報、同窓会の開催記事などがございましたら、併せて事務局までお知らせください。出来る限り、本会誌に掲載させていただきます。

学生の声

岡林 篤紀（電気電子情報工学専攻 先進電磁エネルギー工学コース・M2）

私は、電子情報エネルギー工学科を卒業し、大学院では先進電磁エネルギー工学コースの田中研究室で研究・勉学に取り組んでまいりました。これまでの大学生活を振り返りますと、様々な貴重な出会いもあり、さらには研究にも打ち込み、充実した6年間であったと感じています。

私の大学生活の原点は幼少期から宇宙や太陽に興味を待っていたことにあり、大阪大学に入学する折から宇宙物理学や核融合物理学に携わろうと考えていました。学部生の時は、宇宙物理学や核融合物理学、またこれらを扱う上で切っても切り離せない関係にあるプラズマ物理学に接する機会は少なく、私にとって非常に難解であったため、自主的かつ積極的にこれらの勉学に勤しんでまいりました。そして、学部3年生の時に初めて、プラズマ物理学に関する授業があり、そこで学んだ授業内容や関連の研究内容は私にとって非常に刺激的なものでした。それがきっかけとなり、後にこの授業を受け持って頂いた田中和夫教授の研究室に配属を希望するに至りました。

現在、私が所属する先進電磁エネルギー工学コースは他のコースに比べ少し特殊で、内部生があまり配属されず大部分を外部の大学からやってくる学生が占めており、初めは不安な要素がたくさんありました。しかし、そんな中、研究熱心な先輩方、同期の友人と互いに切磋琢磨し、楽しく大学院生活を送ることができました。

また、研究室に配属されてからは先生・先輩方の熱心な指導や海外との共同研究を通じて、研究に対する姿勢や物事に対する考え方を学ぶことができました。さらには学部時代からの友人だけではなく、研究室で新たに知り合った友人達と触れ合うことで今までとは異なった考え方を学ぶことができたと思っています。

今年で大阪大学に入学してはや6年が過ぎようとしています。これまでの大学生活は私がこれから生きていく上で大きな財産になると思います。そして、多くの友人達が就職していく中、私は博士後期課程に進学する予定です。来年度からは大学の友人達とは離れ離れになりますが、これからも互いに刺激し合い、博士後期課程ではより突き詰めて研究を行っていきたいと考えています。

最後になりましたが、6年間に渡り御指導、御鞭撻を賜りました先生方、様々な有意義な助言を下さいました先輩方、共に支え、刺激しあった友人達、そして、海外との共同研究を支援して頂いた日本学術振興会2国間共同事業に深く感謝致します。

秋田 学（電気電子情報工学専攻 情報通信工学コース・D2）

私は現在、電気電子工学専攻博士後期課程で河崎研究室に在籍しています。河崎研究室に私が配属されて早6年になります。もともと私は、気象現象に興味があり、電波を使って雷現象を観測している河崎先生の研究室に入りました。学部生時代に勉強不足だったせいで、研究室に配属されてしばらくは、研究活動はしつつも、本研究室が開発している雷放電路可視化装置（広帯域干渉計）の原理すら理解できず、これを使ってなぜ雷放電路の絵が描けるのかわかりませんでした。そんな中、2006年のオーストラリア・ダーウィンでの雷観測キャンペーンのリーダーを任せられました。それまでさぼっていたツケがまわりオシロスコープの使い方から観測プログラムまで、ほぼ1から勉強し直しました。さらに、観測期間の最初から最後まで約1ヶ月間を海外で過ごすことは今までに経験したことがなかったので、大変不安でした。もっと前々から先輩に聞いておけばよかったと痛感しました。万が一、観測にトラブルが生じると対処できるか心配な状態でしたが、幸いなことに特に大きなトラブルは起こらず、質の良いデータを取得することができ、自分の力で、雷が起こっているその場で雷放電路を可視化できました。さらに、その雷放電現象は同じ放電経路を複数回辿る雲放電で、世界でも観測例の少ない落雷の多重雷に相当する現象でした。このとき、それまで半信半疑で使っていた広帯域干渉計の真の威力を確信したと同時に研究の面白さ、やりがいを感じ私が博士後期課程への進学を決めた瞬間でした。この結果を国内外の学会で発表しました。

「学会発表」も大学院で初めて経験したことで初めはおおいに戸惑いました。どのようにすれば発表相手に自分

の研究をスムーズに理解してもらえるか、学部生時代まで考えたことがなかったのただ単に研究結果を貼り付けているだけのスライドや学会要項になってしまい、研究の意図をうまく伝えることができませんでした。研究室の先輩や先生に事細かに指導を頂き、研究では結果を出すことはもちろんのこと自分の研究背景を理解しておくことが重要であることを学びました。発表に関しては、もともと緊張しやすい性格で初めての学会発表では緊張し、レーザポインタの位置が定まらなかったのを覚えています。そんな私ですが、国内外の学会で講演するにつれ、研究やそれに関連する知識が深まり、現在ではそれなりにスムーズに発表、質疑応答ができるようになったと思います。またそれに伴い、他大学の研究者との交流が深まりました。

研究室に配属されて以来、知識が増えただけでなく物の見方、考え方が大きく変わりました。研究には自らの研究能力と同様、他人とのコミュニケーション能力が大切であることがわかってきました。私は、自分の考えだけではどうしても考えが狭くなってしまうので、類似する研究分野の人と意見を交換し他の研究者の考え方と自分の考えを融合して新しい考えを見出すことができる研究者を目指しています。自立型の研究者になるのと同時に、他分野の考え方を自分の考え方に応用していき、自分が解明していくべき研究対象に関してそれと類似する他分野の研究者から意見交換を通して享受を受け、広範な分野の研究者に理解されるような研究をしていきたいと思っています。

三成 英樹（電気電子情報工学専攻 量子電子デバイス工学コース・D3）

私は学部4年生で研究室配属をされた時には旧濱口研究室でしたが、博士後期課程2年の後期から谷口研究室に移り、今年の3月に博士課程を修了することができました。研究室の移動がありましたが、学部4年生から博士課程修了まで一貫したテーマで研究を行ってきました。

私の研究内容は、量子力学的効果やフルバンド構造を取り扱うことのできる、半導体デバイスのシミュレーション技術を実現するというものでした。微細化がナノメートルのオーダーまで進んだ半導体デバイスでは、量子力学的効果やフルバンド構造がデバイス特性に影響を与えるため、これらの効果を考慮したシミュレーションは世界的にも注目されている分野です。そのため、国際学会などに参加した際に、同じ目標を持つ世界各地の研究者の研究成果に驚かされることも多々ありました。その中で最も印象的だった事は、アメリカやヨーロッパの研究グループが使っていた計算設備と、私たちの研究グループが使っていた計算設備の規模の違いでした。私たちの研究グループでは、普通のデスクトップPCを10数台用意し、手作りで約30個のCPUによる並列計算の環境を構築していたのに対して、アメリカの研究グループは約10,000個のCPUによる並列計算を行って得られた研究成果を発表してくるのには呆然としました。この様に、圧倒的な物量の差もあって、得られる研究成果の量という点では後塵を拝する状況が多く、悔しい思いをする事もありましたが、アルゴリズムの改善や長期的な計算計画により9割から8割の研究成果は出せたかなと自己評価しております。ただ、研究過程において、これほどの研究設備が私たちにもあったら良かったのかと問われると、そうは思いません。研究プロジェクトとしては、大規模な計算環境を備えていた方が得られたものも多かったと思いますが、私個人としては、計算設備の違いに直面し、如何にしてそれ以上の研究成果を出そうか、インパクトのある結果を出そうかと思案する中で得られた知識や技術は非常に価値のあるものであったと考えるからです。

来年度は、現在の研究をさらに進展させるため、谷口研究室で特任研究員として研究を行うことになっています。最後になりましたが、在学中にお世話になった先生方、研究員、学生の皆様のお陰で無事修了することができました。誠にありがとうございました。もうしばらくの間、お世話になる事となりますが、よろしくお願い致します。

尾崎 麻耶（情報科学研究科 マルチメディア工学専攻・M2）

振り返れば大阪大学に入って6年と言う長い月日が経ちました。地元の友人が社会人になって活躍している間、両親や周りの多くの人に支えられて長い学生生活を送り、その中で人より多くのことを学ぶことができたと思って

います。

学部時代は、学生の本分である勉学はもちろんですが、サークルやアルバイトなど、多くのことに取り組みました。積極的に教授の部屋を訪ねて質問をしたり、サークルでは多国籍の友人と文化の異なるコミュニケーションをとることで、積極性と多様な考え方を受け入れる包容力を学びました。また、アルバイトを通して社会生活に触れ、社会に出るための基本的なマナーなどを学びました。

研究室に配属されてからは、学部時代の基礎的な勉強とは異なり、以前から興味があった3次元仮想環境に関する研究を行いました。また、同時に同期の仲間と協力して、学生コンテストや国際学会などにも参加し、より自分のスキルを磨くと共に、専門分野のみを狭く学ぶのではなく、分野の融合、そして他大学とのコミュニケーションを築くことができました。研究室に所属することで、自分の研究とは直接関係のないタスクを振られることも多々ありましたが、それによって様々な研究チームと交流を持つことができ、結果的に自分自身の幅広い経験を積むことができました。

就職活動をするとき、「自分」について一から見直してみても気付いたのですが、今までの経験は確かに「今の自分」につながる道になっています。当たり前なことじゃないかと思われるかもしれませんが、今まであった多くの分岐点で、どの道が現状を作るのかなんてその時にはわかりません。私は、無数の選択肢の中から今の自分を選んだことを誇りに思いますし、それを支えてくれた人たちに本当に感謝しています。この場を借りて、家族、先生、諸先輩方、友人、そして周りの多くの方たちに感謝の言葉を述べます。ありがとうございました。これから先も、この学生生活で学んだことを活かし、自分で自分を誇れる道を歩んでいきます。そして、今まで支えてくれた多くの人を、今度は私が支えていけるように頑張っていきたいと思います。

滞電会会費納入のお願い

陽春の候、会員各位には益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。本会の活動に変わらないご支援を頂き有り難く存じております。

さて滞電会の財政状況は、特に今年度は名簿の刊行を予定しておりますため、非常に厳しい状況にあります。本会の活動は全て会員各位からの会費に依存しております。本会の活動をより活発にするために、何卒、平成22年度会費（4,000円）の早期納入（できれば6月末日までに）にご協力賜りますようお願いする次第であります。特に新しい会員各位の納入率が低くなっておりますので、卒業して間もない方々も是非ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。また名簿の関係で会員情報の変更がございましたら速やかにご連絡頂くようお願い申し上げます。

会費納入の便宜を図るため、銀行口座からの会費自動振込制度およびコンビニエンスストアでの会費納入システムも採用しておりますので、是非ご利用下さい。自動振込の銀行口座を変更ご希望の場合は、滞電会事務局までご一報くだされば、折り返し口座変更手続きに必要な預金口座振替依頼書をご送付いたします。

なお、大学学部卒業時から53年を経過した方（平成22年度会費の場合、学部卒業が昭和32年以前の方）の会費は免除になっておりますので、納入の必要はございません。また、未納の過年度会費はご請求申し上げないことになっております。

会員の方々のご活躍

受賞（学会賞・学会フェロー称号等）

宮本俊幸 先生（電子・平4・M6・D9）
電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ 功勞
感謝状

滝根哲哉 先生
電子情報通信学会 論文賞
財団法人電気通信普及財団 第25回テレコムシステム技術賞

北山研一 先生（通信・昭49・M51）
2009年度第23回フジサンケイビジネスアイ賞

馬場口登 先生（通信・昭54・M56）
2009 Fifth International Conference on Infor-
mation Assurance and Security Best Paper
Award
第8回情報科学技術フォーラム FIT論文賞
電子情報通信学会フェロー

新田直子 先生
第8回情報科学技術フォーラム FIT論文賞

三瓶政一 先生
エリクソン・テレコミュニケーション・アワード2009

溝口理一郎 先生
人工知能学会 功績賞
人工知能学会 フェロー
人工知能学会 研究会優秀賞

來村徳信 先生
日本機械学会 設計工学・システム部門 フロン
ティア業績表彰

森田清三 先生
第15回2009年度榊特別賞

村上孝三 先生（通信・昭46・M48）
International Conference on Multimedia, Infor-
mation Technology and its Applications (MITA
2009) Young Scientist Paper Award

木下和彦 先生（情報・平8・M9）
電子情報通信学会 活動功勞賞(英文論文誌編集委員)

西尾章治郎 先生
原隆浩 先生（情報・平7・M9）
義久智樹 先生（情報・平14・マルチメディア工学専
攻M15・D17）
International Conference on Advances in P2P
Systems (AP2PS 2009), Best Papers

前田太郎 先生
安藤英由樹 先生
第14回日本バーチャルリアリティ学会大会 学術奨
励賞

安藤英由樹 先生
ARS ELECTRONICA INTERACTIBE・ART 部
門入賞

就任（学会の要職等）

熊谷貞俊 先生
衆議院議員（2009年8月）

北山研一 先生（通信・昭49・M51）
電子情報通信学会副会長（2010年5月）

教室情報

平成22年度電気電子情報工学専攻役割分担

大学院専攻

電気電子情報工学専攻長	馬場口 登	教授
電気電子システム工学部門長	伊瀬 敏史	教授
情報通信工学部門長	北山 研一	教授
量子電子デバイス工学部門長	栖原 敏明	教授

システム・制御・電力工学コース長

高井 重昌	教授	
先進電磁エネルギー工学コース長	兒玉 了祐	教授
情報通信工学コース長	滝根 哲哉	教授
量子電子デバイス工学コース長	八木 哲也	教授

電子情報工学科

電子情報工学科長	村上 孝三	教授
電気電子工学科目長	高井 重昌	教授
システム制御電力コース長	〃	
先進電磁エネルギーコース長	兒玉 了祐	教授
量子電子デバイスコース長	森 勇介	教授
情報通信工学科目長	滝根 哲哉	教授
情報通信工学コース長	〃	

就職担当

電気系就職担当代表窓口	滝根 哲哉	教授
電気電子システム工学部門	田中 和夫	教授
情報通信工学部門	滝根 哲哉	教授
量子電子デバイス工学部門	森 勇介	教授
電気電子工学科目		
システム制御電力コース	田中 和夫	教授
先進電磁エネルギーコース	〃	
量子電子デバイスコース	森 勇介	教授
情報通信工学科目		
通信工学クラス	滝根 哲哉	教授
情報システム工学クラス	尾上 孝雄	教授

電気系人事（平成21年4月2日～平成22年4月1日）

巽 啓司	准教授	H21.5.1	昇任
宮丸 広幸	助教	H22.3.31	退職 (大阪府立大学へ)
楠木 祥文	助教	H22.4.1	採用
石田 智昭	助教	H22.3.31	定年退職
吉田 悠来	助教	H21.10.1	採用
河原 吉伸	助教	H22.4.1	採用
本多 信一	准教授	H21.9.30	退職 (兵庫県立大学大学院工学研究科電気系工学専攻へ)
百瀬 英毅	助教	H22.3.31	配置換 (大阪大学低温センター専任助教へ)
畠中 理英	助教	H22.4.1	配置換
岸野 文郎	教授	H22.3.31	定年退職
北村 喜文	准教授	H22.3.31	退職 (東北大学教授へ)
高嶋 和毅	助教	H22.4.1	配置換 (国際公共政策研究科助教へ)
細田 耕	教授	H22.4.1	昇任・配置換 (知能・機能創成工学専攻から)
池本 周平	助教	H22.4.1	採用
鮫島 正樹	助教	H21.6.1	採用
富樫 祐一	講師	H21.10.1	配置換 (大阪大学サイバーメディアセンター兼任)
阿部 洋丈	助教	H22.4.1	採用

母校の教壇に立つ本会会員（平成21年度）

- ・電気電子情報工学専攻「電気電子情報工学特別講義I」
JFEスチール（株）東日本製鉄所制御技術室 主任
部員（副部長）
河村 和朗（電気・平2・M4）
- ・情報通信工学科目「電気電子情報工学特別講義I」
大阪府立大学 大学院工学研究科 教授
大松 繁（通信・平4）
- ・電気電子情報工学専攻「電気電子情報工学特別講義I」
JFEスチール（株）西日本製鉄所制御技術室 主任
部員（副部長）
岡田 誠康（電子・平4）
- ・電気電子情報工学専攻「電気電子情報工学特別講義III」
関西電力（株）経営改革・IT本部 通信システム
グループ チーフマネジャー
滝本 昭彦（通信・昭61）
- ・電気電子情報工学専攻「電気電子情報工学特別講義III」
（株）NTTドコモ プロダクト部 担当部長
佐藤 嬉珍（通信・M平2・D5）
- ・電子情報工学科「ソフトウェア工学」
（株）NSソリューションズ関西 産業ソリュー
ション部 取締役部長
森久 博（情報・D平12）
- ・電子情報工学科「制御工学I」
国立大学法人京都大学 大学院工学研究科 教授
土居 伸二（元教員）
- ・電気電子工学科目「産業社会と工学倫理」
（株）富士通システム統合研究所 取締役次長
前川 通（電気・昭49・M51）
- ・電気電子工学科目「産業社会と工学倫理」
福島特許事務所 所長
福島 祥人（電気・昭55・M59）
- ・情報通信工学科目「情報社会と職業」
シャープ（株）研究開発本部プラットフォーム開発
センター 副参事
生駒 孝夫（通信・昭51）
- ・情報通信工学科目「情報社会と職業」
シャープ（株）研究開発本部プラットフォーム開発
センター 主事
上田 宏高（情報・平9・M10・D13）
- ・情報通信工学科目「情報社会と職業」
シャープ（株）研究開発本部プラットフォーム開発
センター 主事
永松 孝之（情報・平12・M14）

平成22年3月電気系卒業生・修了者就職先

■学部卒業生の進学・就職先（本会に関わる内部進学者を除く）

システム・制御・電力コース（5名）

東京大学大学院(2)
奈良先端科学技術大学院大学
リョービ(株)
未定

(株)紀陽銀行
(株)電通
帰国
未定

富士通テン(株)
未定

電気工学科目（2名）

長谷川鉄工(株)
(株)堀場エステック

先進電磁エネルギーコース（1名）

三星ダイヤモンド工業(株)

情報通信工学コース（11名）

大阪大学法科大学院
清教学園中学校・高等学校
奈良先端科学技術大学院大学(3)
アイチップステクノロジー(株)
(株)ジェイテック
TCBホールディングス(株)
(株)日立システムアンドサービス

電子工学科目（1名）

未定

量子電子デバイスコース（8名）

東京大学大学院(2)
(株)オースビー
(株)オデッセイ

情報システム工学科目（1名）

帰国

■大学院前期課程修了者

電気電子システム工学部門（41名）

福井大学
旭硝子(株)
朝日放送(株)
(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ
関西電力(株)
関西ペイント(株)
近畿日本鉄道(株)
ケイ・オプティコム(株)
JFEスチール(株)
(株)シスメックス
シャープ(株)
新日本製鐵(株)
住友電気工業(株)
ソニー(株)
(株)ダイヘン
中国電力(株)(2)
中電技術コンサルタント(株)
中部電力(株)
東芝三菱電機産業システム(株)
(株)東芝
東ソー(株)

トヨタ自動車(株)
豊田通商(株)
パナソニック(株)
パナソニック電工(株)
(株)日立製作所
ファナック(株)
富士紡ホールディングス(株)
ブラザー工業(株)
古河機械金属(株)(2)
古野電気(株)(2)
三菱重工業(株)(2)
三菱電機(株)(2)
讀賣テレビ放送(株)
ローム(株)
未定

エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)
(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ
FPTジャパン(株)
関西電力(株)
キヤノン(株)
京セラミタ(株)
サントリーホールディングス(株)
(株)JSOL
四国電力(株)(2)
新日鉄エンジニアリング(株)
新日鉄ソリューションズ(株)
住友電気工業(株)
(株)セック
ダイハツ工業(株)
(株)ディー・エヌ・エー
(株)デンソー

情報通信工学部門（38名）

総務省
アイコム(株)
朝日放送(株)
ウィアー・エンジニアリング(株)
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)(2)

東京電力(株)
(株)東芝
トヨタ自動車(株)
日本電気(株)
日本電信電話(株)
パナソニック(株)(2)

東日本旅客鉄道(株)
日立製作所
富士通(株)
富士通関西中部ネットテック(株)
マルハン(株)
三井住友銀行
三菱重工業(株)
三菱電機(株)

量子電子デバイス工学部門 (61名)

防衛省
旭化成(株)
旭硝子(株)
西日本電信電話(株)
オムロン(株)
川崎重工業(株)
関西電力(株)
キヤノン(株)
京セラ(株)
クボタ(株)
ケイ・オプティコム(株)
京阪電気鉄道(株)
神戸製鋼所(株)
三洋電機(株)
JSOL(株)
島津製作所(株)
シャープ(株)

住友電気工業(株)
セイコーエプソン(株)
ソニー(株)
大研医器(株)
ダイハツ工業(株)
大和証券キャピタルマーケット(株)
中国電力(株)
デンソー(株)
東京エレクトロン九州(株)
東芝(株)
東陽テクニカ
トヨタ自動車(株)
日揮(株)
日産自動車(株)
日本電信電話(株)
パナソニック(株)
日立金属(株)
日立製作所(株)
富士ゼロックス(株)
富士通(株)
本田技研工業(株)
三菱重工業(株)
三菱電機(株)
村田製作所(株)
ヤマハ(株)
リコー(株)
ローム(株)

未定(3)

情報科学研究科 (29名)

京都教育大学
神戸大学大学院
IHI(株)
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)
エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)
NTTデータ通信(株)
関西電力(株)
京セラ(株)
京都製作所(株)
住友化学工業(株)
ソニー(株)
ディー・エヌ・エー(株)
テルモ(株)
トヨタ自動車(株)
トレンドマイクロ(株)
日本アイ・ビー・エム(株)
日本放送協会
パナソニック(株)
日立製作所(株)
富士通(株)
三菱電機(株)
ユー・エス・イー(株)
リコー(株)

■大学院後期課程修了者

電気電子システム工学部門 (4名)

日本原子力研究開発機構(2)
帰国
未定

情報通信工学部門 (17名)

大阪大学大学院
関西大学
広島国際大学
ウィアー・エンジニアリング(株)
日本電信電話(株)

富士通研究所(株)
三菱電機(株)
未定(9)

量子電子デバイス工学部門 (11名)

大阪大学(3)
東北大学大学院
産業技術総合研究所
ダイキン工業(株)
日立製作所(株)
未定(4)

情報科学研究科 (7名)

神戸大学大学院
日本電気(株)
プロメテック・ソフトウェア(株)
Microsoft Research Asia
三菱電機(株)
ルネサステクノロジ(株)
未定

注意：会社名等の後ろのカッコ内数字は人数（数字のないものは一人）を表します。調査時（平成22年3月末まで）に回答の得られたものを（順不同で）記載しました。

滯電会役員

平成21年度滯電会本部役員としてご尽力頂いた方々は下記のとおりです。○印は平成21年度、新たに就任された役員です（敬称略）。役員氏名の他に、連絡先を付記してありますのでご用の節はお気軽にご連絡下さい。

[本部]		○木村 秀夫（電気・昭62）	西日本旅客鉄道(株)
会 長		西畑 広昭（電気・昭62）	近畿日本鉄道(株)
白川 功（電子・昭38）	兵庫県立大学	米田 秀弥（通信・昭62）	(株)NTTネオメイト
		藤村 昌寿（電子・昭63）	阪大・工・電電情・子
副会長		西口 芳明（電気・平元）	三菱電機(株)
○渡辺 克信（通信・昭42）	朝日放送(株)	山田 佳弘（通信・平2）	(株)日立製作所
鶴保 征城（電子・昭39）	情報処理推進機構	○舟木 剛（電気・平3）	阪大・工・電電情・気
白髭 修一（電気・昭46修）	中国電力(株)	尾上 孝雄（電子・平3）	阪大・情報科学研究科
坂入 修二（電気・昭47修）	四電エンジニアリング(株)	三浦 克介（電子・平4）	阪大・情報科学研究科
○金藤 敬一（電気・昭46）	九州工業大学	○牛尾 和雄（電気・平5）	阪大・工・電電情・通
○石徹白和夫（電気・昭47）	日本原子力防護システム	○佐竹 康秀（情報・平5）	関西電力(株)
片山 正昭（通信・昭56）	名古屋大学	吉村 尚洋（電気・平12）	三洋電機(株)
谷口 研二（電子・昭46）	阪大・工・電電情・子	○羽原 英明（電気系教員）	阪大・工・電電情・気
幹 事		連絡先：〒565-0871 吹田市山田丘2-1	
○河崎善一郎（通信・昭48）	阪大・工・電電情・気	大阪大学 大学院工学研究科 電気系内	
田中 和浩（電気・昭49）	(株)ダイヘン	滯電会事務局 安井晴子	
伊藤 利道（電気・昭50）	阪大・工・電電情・子	TEL：06-6879-7789（ダイヤルイン）	
○山元 正人（電気・昭53）	日本電気(株)	FAX：06-6879-7774	
志賀 信夫（通信・昭53）	住友電気工業(株)	E-mail：reiden@pwr.eng.osaka-u.ac.jp	
○白神 宏之（電気・昭54）	阪大・レーザー		
庄中 永（通信・昭54）	オムロン(株)		
松井 謙二（通信・昭54）	パナソニック(株)		
天野 督士（電気・昭55）	シャープ(株)		
田中 史朗（電気・昭56）	(株)東芝		
稲田 浩二（通信・昭57）	関西電力(株)		
岸元 泰親（電子・昭57）	シャープ(株)		
○村上 匡且（電気・昭58）	阪大・レーザー		
田辺 達也（電子・昭58）	住友電工(株)		
壇 徹（電子・昭58）	三洋半導体(株)		
○仲嶋 一（電子・昭58）	三菱電機(株)		
○浦部 嘉夫（通信・昭59）	パナソニック(株)		
藤田 卓志（電子・昭61）	(株)富士通研究所		

阪大・工・電電情・気：	大阪大学	大学院工学研究科	電気電子情報工学専攻	電気電子システム工学部門
阪大・工・電電情・通：	〃	〃	〃	情報通信工学部門
阪大・工・電電情・子：	〃	〃	〃	量子電子デバイス工学部門
阪大・情報科学研究科：	〃	大学院情報科学研究科		
阪大・レーザー	：	〃	レーザーエネルギー学研究センター	

支部連絡先

濤電会支部としては、東京、東海、北陸、中国、四国、九州支部が活動を行っています。最新の連絡先を付記してありますのでご用の節はお気軽にご連絡下さい。

[東京支部]

支部長

鶴保 征城（電子・昭39）学校法人 専門学校
HAL東京

代表幹事

上野 芳明（通信・昭48）東芝電波プロダクツ(株)
TEL：044-548-5235
浅井 裕（基・昭47）沖電気工業(株)
TEL：03-5403-1211

事務局

田中 史朗（電気・昭56）(株)東芝
〒198-8710 青梅市末広町2-9 東芝青梅事業所
#30-2F
デジタルメディアネットワーク社 技術企画部
TEL：0428-34-2057
FAX：0428-30-7331
E-mail：fumi.tanaka@toshiba.co.jp
斉藤壮一郎（通信・昭55）沖電気工業(株)
TEL：03-5445-6014
E-mail：saitou329@oki.com

[東海支部]

支部長

片山 正昭（通信・昭56）名古屋大学

代表幹事・事務局

山口 雅史（電子・平3）名古屋大学
〒464-8603 愛知県名古屋市千種区不老町C3-1
名古屋大学 工学研究科電子情報システム専攻
TEL：052-789-3638
FAX：052-789-3156
E-mail：yamaguti@nuuee.nagoya-u.ac.jp

[北陸支部]

支部長

石徹白和夫（電気・昭47）日本原子力防護システム(株)

代表幹事・事務局

藤田 輝雄（電子・昭53）福井工業大学

〒910-8505 福井県福井市学園 3-6-1
福井工業大学 電気電子工学科
TEL：0776-29-2517
E-mail：tfujita@fukui-ut.ac.jp

[九州支部]

支部長

金藤 敬一（電子・昭46）九州工業大学

代表幹事・事務局

服部 励治（電気・昭61）九州大学
〒819-0395 福岡県春日市春日公園6-1
九州大学 産学連携センター プロジェクト部門
フォトリックシステム領域
TEL&FAX：092-583-7883
E-mail：hattori@astec.kyushu-u.ac.jp

[四国支部]

支部長

坂入 修二（電気・昭47修）四国電力(株)

代表幹事・事務局

山間 昭典（電気・昭63）四国電力(株)
〒760-8573 高松市丸の内2-5
四国電力(株) 電力輸送本部 送変電部 変電グループ
TEL：050-8801-3861
FAX：087-826-1074
E-mail：yamama13337@yonden.co.jp

[中国支部]

支部長

白髭 修一（電気・昭46修）中国電力(株)

代表幹事・事務局

増岡 裕樹（通信・平11）中国電力(株)
〒730-8701 広島市中区小町4-33
中国電力(株) 流通事業本部 計画担当
TEL：050-5521-0982
FAX：082-523-6308
E-mail：276972@pnet.energia.co.jp

滯電会だより

平成21年度 電子情報工学科特別講演会 電子情報工学科入学・滯電会入会祝賀会

平成20年度に急遽開催された1年生歓迎の講演会・懇親会が、滯電会公式行事として毎年開催されることとなり、平成21年度は、いちよう祭期間中の平成21年5月1日（金）に開催された。昨年度は、会の正式名称も無いままに開催されたのだが、今年度は、講演会を「電子情報工学科特別講演会」、懇親会を「電子情報工学科入学・滯電会入会祝賀会」とすることが決められた。

講演会に先立って、10:00~15:00の間、工学部施設公開の一部として、また、電子情報工学科1年生配当講義「電子情報工学序論」の一環として、電気系全研究室の公開が行われた。一般来場者に交じって、電子情報工学科1年生が電気系研究室の最新の研究内容を見て回った。

15:00~17:00には、共通講義棟U3-211講義室にて、電子情報工学科特別講演会が開催された。電子情報工学科科学科長・岸野文郎教授により「ヒューマンインタフェースを形に」と題する講演が行われ、岸野教授がこれまで携わってこられた、斬新なヒューマンインタフェース手法やデバイスの数々が紹介された。続いて、マイクロソフト株式会社 代表執行役社長・樋口泰行氏（電子・昭55）により「テクノロジーがひらく未来」と題する講演が行われた。日本ヒューレット・パカード株式会社、株式会社ダイエー、マイクロソフト株式会社の3社で社長を務められた経験や現在のマイクロソフト社の事業の紹介、情報通信技術の未来像等をご講演頂いた。電子情報工学科1年生96名、教員・一般聴講者33名、合計129名の聴衆が、熱心に講演に耳を傾けた。

講演会終了後、17:30~19:00には、学生食堂ファミール第2食堂において、電子情報工学科入学・滯電会入会祝賀会が開催された。尾上孝雄教授の司会のもと、滯電会会長・白川 功名誉教授（電子・昭38）が挨拶され、続いて、岸野文郎教授のご発声で乾杯が行われた。当然の事であるが、学部1年生の大多数が未成年であるので、お茶やジュースなどのソフトドリンクでの乾杯であった。しばらくの歓談の後、三浦克介准教授（電子・平4）の司会でクイズが行われた。「電子情報工学科は2008年に、創立〇〇周年を迎えま

した。〇〇に入る数字は？ ①50、②80、③100」といった、電子情報工学科や滯電会にまつわる全15問の三択問題が出題され、1年生が回答した。成績優秀者には、図書カードが景品として贈られた。最後に、GCOE代表・谷口研二教授（電子・昭46）の音頭による万歳三唱で締めくくりとなった。1年生67名、教員46名、大学院生スタッフ10名、合計123名が、楽しいひと時を過ごした。

（三浦克介（電子・平4）記）

平成21年度 総会

平成21年6月6日（土）午前11時より大阪中之島リーガロイヤルホテル「山楽の間」にて303名の参加者を得て開催された。白川功会長（電子・昭38）の挨拶の後、馬場口登総務幹事（通信・昭54）から平成20年度事業報告が、また伊藤利道会計幹事（電気・昭50）から平成20年度決算報告が行われ、それぞれ承認された。続いて新副会長4名ならびに幹事15名の指名が行われ、承認されたのち、渡辺克信副会長（通信・昭42）から新役員を代表して挨拶があった。引き続き伊藤利道新総務幹事から平成21年度事業計画案が、また舟木剛新会計幹事（電気・平3）から平成21年度予算案の説明が行われ、拍手をもって承認され無事終了した。

（西村博明（電気・昭50）記）

第27回 滯電会見学会

平成21年度の見学会は「阪神なんば線が結ぶ奈良・神戸」と題しまして11月13日に、今年3月20日開通いたしました「阪神なんば線」を中心として、「近鉄けいはんな線車庫・指令所」、「甲子園球場」と3箇所の見学を実施いたしました。

当日はあいにくの曇天でしたが幸い雨もなく、現役の学生を含む43名の皆様にご参加いただきました。午前中は近鉄東生駒駅にて、日頃一般者には入れない車庫と運転指令所を見学させていただきました。けいはんな線の珍しいサードレール方式の車両整備や運行管理システムをはじめとする様々なシステムを見せていただくとともに、今回の見学会担当の西畑宏昭氏（近鉄）による「けいはんな線のトータルシステム ～新

線事業における収支改善の取組み～」と題した約1時間の講演を聴講しました。鉄道事業の構造的課題点と業務改善の取組みについての堅いテーマでしたが、参加者は熱心に聴講しておられました。

昼食をいただいた後、近鉄奈良線から阪神なんば線を経由して阪神九条駅に移動しました。九条変電所の機器および電力系統、九条駅における駅務合理化や照明の省エネなどについてご説明をいただきました。また見学者からも熱心な質疑応答がありました。

その後、最終目的地である阪神甲子園球場へ移動いたしました。甲子園球場では、球場内設備を説明していただき、一塁側のブルペンや一塁のベンチなど一般のお客様に入っていないところを見せていただきました。甲子園の芝が二期作で夏芝と冬芝があることやカラスよけ対策にCDをぶら下げておられることなどが印象的でした。

今回は、現地集合・電車移動・現地解散という、例年とは異なるスタイルでの見学会でしたが、皆様にはご好評をいただいたかと思えます。なんば線開通により、梅田駅の乗降客数が減少し逆に難波駅の乗降が増えるなど、大阪中心部の人の流れが変わりつつあるのことに深い印象を憶えました。最後になりましたが、本見学会実施に際しまして多大なるご協力をいただきました、近畿日本鉄道様、阪神電気鉄道様に深く感謝申し上げます。

（白神宏之（電子・昭54）、
西畑宏昭（電子・昭62）、
村上匡且（電子・昭58）記）

平成21年度電気系卒業祝賀・謝恩会

平成21年度電気系卒業祝賀・謝恩会は平成22年3月23日（火）学位授与式当日の午後6時から、千里阪急ホテル・仙寿の間において開催された。卒業生出席者数237名（情報システム工学科目、情報科学研究科を除く）にご来賓、電気系職員、滯電会役員の方々を合わせて325名の出席者を得た。

式典の部は舟木 剛幹事（電気・平3）の司会で進められ、最初に滯電会会長・大阪大学名誉教授・兵庫県立大学教授の白川功先生（電子・昭38）から祝辞を戴いた。ついで大阪大学同窓会連合会会長・大阪大学元総長・名誉教授・兵庫県立大学学長の熊谷信昭先生（通信・昭28旧）、株式会社NTTドコモ常務執行役員・関西支社長の西邑省三様のご両名から来賓の祝辞を戴いた。最後に、電気系教員代表として、電気電子情報工学専攻長の河崎善一郎先生（通信・昭48）から

祝辞を戴いた。このあと、各支部からの祝電の披露があり、パーティーに移った。

パーティーの部は牛尾知雄（電子・平5）の司会で進められた。まず、シャープ株式会社顧問・滯電会前会長の三坂重雄様（電子・昭38）のご発声で乾杯し、歓談に移った。宴もたけなわの頃、白川会長より工学賞の野村雅司君（システム・制御・電力コース）、合田慎君（情報通信工学コース・通信工学クラス）、小島世誠君（両氏電子デバイス工学コース）へ記念品の授与、部門推薦により岡林篤紀君（電気電子システム工学部門）、小玉崇浩君（情報通信工学部門）、井上曜君（量子電子デバイス工学部門）への景品授与があった。そのあと、恒例の福引き、お餅つきが賑やかに行われ、ついで卒業生の代表として量子電子デバイスコース・博士前期課程の高岡竜也君から教員および滯電会諸先輩への感謝と将来への決意が述べられた。最後に滯電会副会長・電気電子情報工学専攻教授の谷口研二先生（電子・昭46）の音頭で万歳三唱し、めでたく、祝賀・謝恩会はお開きとなった。

ご臨席賜り、祝辞を戴きましたご来賓の方々に厚くお礼申し上げます。また、ご多用中にもかかわらず、臨席戴きました電気系職員の方々にもお礼申し上げます。滯電会事務局の安井晴子様にはいつもながら献身的に会の準備にあたっていただき、さらには電気系秘書の方々、一部の学生諸君には準備・受付業務などをお手伝い戴きました。これらの方々に心よりお礼申し上げます。今年も快く記念品、福引きの景品を寄贈戴きましたNTTインターネット(株)、NTTコムウェア(株)、NTTスマートコネク(株)、(株)NTTデータ、(株)NTTドコモ、(株)NTTネオメイト、(株)NTTファシリティーズ、関西電力(株)、近畿日本鉄道(株)、シャープ(株)、住友電気工業(株)、(株)ダイヘン、(株)東芝、西日本電信電話(株)、西日本旅客鉄道(株)、パナソニック(株)、阪神電気鉄道(株)、(株)日立製作所、富士通(株)、三菱電機(株)、(株)ルネサステクノロジ（社名50音順）の各社様に厚くお礼申し上げます。

（牛尾知雄（電子・平5）記）

平成21年度滯電会東京支部総会報告

平成21年度滯電会東京支部総会が4月24日午後6時よりメルパルク東京にて開催されました。ご来賓として白川功会長、馬場口登総務幹事、事務局の安井晴子様、また大阪大学工業会東京支部から支部会長の池田博昌様、大阪大学から理事・副学長の西尾章治郎様にご臨席頂きました。基礎工学部からのご参加16名を含

め総勢136名の盛会でありました。

今回は「母校に思いを致す、母校を知る」ということで、「量子暗号—量子力学と情報通信との融合—」と題し、大阪大学工学研究科電気電子情報工学専攻の井上恭教授の講演を実施致しました。20世紀の一大イベントである量子力学は物性で語られることが多かったのですが、その原理を暗号化の手段として情報通信に利用したのが量子暗号化、とご紹介いただきました。また、量子暗号が盗聴された場合は干渉縞がなくなる、といった量子暗号化の仕組みについても分かり易くご説明いただきました。普段は難しいと考え敬遠しがちな分野ですが、大変興味深い内容で、お陰様で幾ばくか量子暗号化の理解が深まりました。また、暗号化等セキュリティにかかわる分野はビジネスライクにはいきませんし、かつ量子暗号化は物性と情報通信が融合して成り立つ技術ですから、阪大電気系が力を発揮する絶好のフィールドであると感じました。

続く懇親会では、まず鶴保支部長から、日本の将来のために未曾有の危機を乗り越え、これまでの感覚を切り替えながらも信じる道を進んでいかねばならない、との挨拶があり、白川功会長からは、例えば環境に着目する等、滞電会で各々手を尽くし、互いに連携を深めて頑張っていきたい、そのためには是非電気系100周年記念式典へ参加頂きたい、とのご挨拶を頂きました。

続いて前支部長でもある池田博昌様からは、100周年を迎えた電気系、大阪大学工業会等縦横斜めの各関係をより一層活かしてほしい、とのご挨拶を頂きました。

西尾章治郎様からは、大阪大学の現状のご紹介があり、学部数では東大を抜いて日本一、世界の大学ランキングでも東大、京大に次ぐ位置にあるとのご説明を頂きました。また、平成23年の大阪大学創立80周年に向けて記念事業の検討を開始したので、皆様のご厚情、ご支援を是非ともお願いしたい、とのご挨拶を頂きました。

更に、馬場口登総務幹事からは電気系・滞電会の近況報告として、大学における電気系の位置づけや、電気系100周年記念式典をはじめとした滞電会の取組みについて詳細に報告頂きました。

予定では白川功会長から乾杯のご発声頂くことになっておりましたが、会長たってのご希望で池田博昌様に乾杯のご発声を頂くこととなり、お陰様で会が一層和やかなものとなりました。

会終盤、本年総会幹事会社を代表して山田佳弘氏（日立）から挨拶があった後、次回総会幹事会社を代

表して上村芳明氏（東芝）から来年へ向けての力強い挨拶／万歳三唱をもって総会全予定を盛会裏のうちに無事終了致しました。

（沖田剛一（通信・平8）記）

平成21年度滞電会東海支部総会報告

滞電会東海支部は、平成21年10月31日（土）小春日和の下、コスモス畑に囲まれた愛知県刈谷市の依佐美（よさみ）送信所記念館において見学会、支部総会及び懇親会を開催しました。ご来賓として滞電会会長の白川功先生、副会長の谷口研二先生、総事務幹事の伊藤利道先生、滞電会幹事の舟木剛先生をお迎えいたしました。支部からは、片山正昭滞電会東海支部長（通信・昭56）をはじめ、昭和37年度卒から平成19年度卒までの23名の参加者を得ることができ、総勢27名での盛会となりました。

当日はJR・名鉄刈谷駅に集合後、バスで愛知県刈谷市の“フローラルガーデンよさみ”の中に位置する依佐美送信所記念館へ移動し、ボランティアガイドの正木様、鈴木様、加藤様のご案内で70年の歴史を持つ送信所設備を見学しました。依佐美送信所は昭和4年に建設された当時世界最大級（500kW）の無線送信設備であり、それまで海中ケーブルに頼っていた通信を長波（17.422kHz）による欧州への送信実現により、日本の外交・通商の発展に寄与した設備です。また、長波通信の水中到達性から海中の潜水艦への通信が可能ということで平成5年まで米軍に使用されていました。第2次世界大戦日米開戦を告げる「ニイタカヤマノボレ」も依佐美送信所からの送信と伝えられています。記念館内部には、平成5年までの65年間使用されていた大型の電動機・発電機、周波数変換器等、近代電気通信技術のマイルストーンが多数展示されており、諸先生方とボランティアガイド様との熱い討議が繰り広げられました。館外には、平成9年まで、高さ250m（300t）の鉄塔が500mの間隔で4本×2列に聳え立っていた名残として、1本の鉄塔の最下部25mが保存展示されており、10分の1サイズでも十分な迫力のあるモニュメントの前で記念撮影を行いました。

総会はフローラルガーデン内テングドロソバルビノにおいて開催され、片山支部長による開会のご挨拶の後、白川滞電会会長から御挨拶を頂戴しました。議事に入り、山口代表幹事より活動報告および計画が報告されました。また、来年度の支部長には、片山支部長の留任が提案され、了承されました。次に、高田会計幹事より提出された予算案が原案通り承認さ



れました。白川功滯電会会長よりご挨拶と特別講演「IEEE Milestoneものがたり 一関西が生んだイノベーションを中心にして」を頂戴いたしました。講演の中では、関西に芽吹いた近年4件の技術開発案件のMilestone申請・認定の苦労談を絡めながら、開発技術の社会適用における目標とすべき、①長期間活用（25年以上）、②他に比類するものなきユニーク性、③社会への貢献、の3点を力強くご教示いただきました。その後、伊藤利道滯電会総務幹事より、「母校と滯電会の今」と題し、①電子情報工学科の成立ち含め100周年記念総会のご報告、②研究棟の更新計画、③前後期入学試験方式への課題感、④滯電会会費の収集状況と支部総会への期待と激励、等のご講演を頂きました。

総会終了後は、引き続きテングラッソバルビノにて懇親会を開催し、ビールで乾杯の後、来賓と会員、会員相互での歓談、各位の近況報告を交えながら、白川功滯電会会長の、「みんなアミーゴせなあかん！」の号令の元、大いに交友を深めました。舟木剛滯電会幹事の音頭のもと、万歳三唱で懇親会のお開きとなりました。

(名田 満 (電気・昭58)、
平田晃正 (通信・平8) 記)

平成21年度滯電会北陸支部総会報告

滯電会北陸支部は、6月13日(土)に、第20回支部総会、懇親会を宇奈月温泉グリーンホテル喜泉で開催するとともに、宿泊の後、翌日の14日(日)に、黒部川電気記念館、黒部峡谷、黒四発電所、黒四ダム、室堂平の見学会を行いました。本部からは、白川功会長、伊藤利道総務幹事、馬場口登前総務幹事、河崎善一郎役員(ご夫人も参加)、舟木剛役員、藤村昌寿総務幹事補佐をご来賓にお迎えし、総会は19名の参加となりました。

当日は富山地方鉄道宇奈月温泉駅に午後3時に集合し、バスにて、駅から5分ほどのグリーンホテル喜泉に移動、午後3時半から支部総会を開催いたしました。石徹白支部長の挨拶で始まり、白川会長に挨拶いただいた後、平成20年度の事業報告と会計決算報告を行いました。続いて、平成21年度の事業計画案、予算案の審議、了承をいただいた後、伊藤総務幹事から本部報告をいただきました。総会の後、ホテルの宴会場に場所を移し、懇親会を開催しました。富山出身の白川会長の乾杯の音頭に始まり、北陸の新鮮な食材に舌鼓を打ちながらの会員の近況報告であつという間に時間が経ち、無事に今年度の支部総会の行事を終えることができました。懇親会の後は、宇奈月の湯で皆さん日ごろの疲れを癒していただけたと思います。

翌日の朝、残念ながら白川会長は所用で富山空港へ、残りの会員は、黒部川電気記念館の見学の後、トロッコ電車で黒部峡谷をけやき平に至り、関西電力専用軌道から黒部川第4地下発電所に入りました。日頃見ることのできない工事用トンネル内部や大型発電機のタービンに驚かされた後、発電所内の事務室で昼食休憩の後、黒四ダムに上がり、ケーブルカー、ロープウェイを乗り継ぎ室堂平に至りました。雲のせいで山連峰を拝み見ることはできませんでしたが、高山のすがすがしさに触れる間もなく、バスで富山駅経由、金沢駅、福井駅と帰路に着きました。

来年度以降も、特に若い会員の方々の参加をお願いいたします。最後に、お世話くださった関西電力様に御礼申し上げます。

(藤田輝雄 (電子・昭和53) 記)

平成21年度滯電会中国支部総会報告

滯電会中国支部では、10月17日(土)、中国電力株式会社土居発電所および国土交通省温井ダムを見学後、小町クラブにおいて支部総会を開催しました。本部から、会長の白川功先生、副会長の谷口研二先生、総務幹事の伊藤利道先生、会計幹事の舟木剛先生をご来賓としてお迎えしました。また、中国支部からは、岩澤宏(通昭26)、岩川泰而(電昭34)、中司浩生(通修昭35)、森川良孝(子昭44)、白髭修一(電修昭46)、朝山修(電昭48)、梅藤治(通信昭48)、相木泰治(電平元)、三川玄洋(通平3)、野口晋一(子平6)、増岡裕樹(通平11)、川口敏昭(電平15)、洞木吉博(子平15)、福本直紀(通平16)、楊井麻里子(基礎工平16)、栗原一憲(基礎工平17)、稲葉大剛(通平17)の17名の方にご出席いただき、合計21名の

盛会となりました。

当日は、JR広島駅に集合後、バスで広島県北の山中にある土居発電所（昭和13年営業運転開始）に移動し、見学会を開催しました。同発電所では、高経年化した水車発電機の取替工事（出力8,000kW→8,200kW）が進められており、平成22年5月の営業運転開始に向け、工事の最盛期を迎えておりました。休日にもかかわらず、広島北電力所発電電課2名の方に、ケーシングや吸出し管など、営業運転中は見ることができない箇所を懇切丁寧に案内していただきました。水力発電は、低炭素社会づくりに貢献する非化石の再生可能エネルギーであり、支部出席者の関心も高く、活発な質疑が行われました。ご案内いただいた広島北電力所発電電課の方には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

次に、土居発電所からバスで30分程度のところにある国土交通省の温井ダム（平成13年竣工）に移動しました。同ダムは、発電用水を含む多目的ダムであり、アーチ式ダムとしては黒部ダムに次ぎ全国で二番目に高いダムです。エレベーターで120メートル程度下った後、200メートルも続く見学トンネルを歩いてダム下流広場に移動し、温井ダムの高さを体感しました。また、当日は、紅葉が始まっており、秋の景色も楽しむことができました。

見学会終了後、バスで広島市中心部にある小町クラブへ移動し、支部総会を開催しました。総会では、白川会長、谷口副会長からご挨拶を頂くとともに、伊藤先生、舟木先生から電気系建物の建替等、母校の近況についてご紹介いただきました。また、急遽、白川先生からIEEE Milestoneに認定された黒部ダムについてご紹介いただき、見学会に引き続きダムについての知見を得ることができました。

総会後の懇親会では、一人ずつ自己紹介と近況報告を行うことができ、来年度の再会を期して散会となりました。

今回も、例年の顔ぶれと違う方、そして若い方に多数ご出席をいただき、盛会とすることができました。ご多忙の中、ご出席いただきました皆様方に感謝申し上げます。来年度も同時期に開催する予定ですので、多数ご出席下さいますようお願い申し上げます。

（増岡裕樹（通信・平11）記）

平成21年度滯電会四国支部総会報告

四国支部では、平成21年11月21日（土）に、総会・懇親会を高知県高知市で開催しました。昨年11月に続

き、4年連続での開催でした。

当日は、晴天に恵まれ、本部より白川功会長、伊藤利道総務幹事、舟木剛会計幹事をご来賓としてお迎えするとともに、白川会長の講演会を行うこともあり、四国支部からも坂入修二支部長をはじめ20名と近年まれにみる多数の参加者を得ることができました。

会場である高知市内のホテルに集合後、まず、総会を行いました。総会では、坂本明雄幹事の司会で、坂入支部長の挨拶から始まり、白川会長からのご挨拶、伊藤総務幹事から母校近況報告、舟木会計幹事からのご挨拶を頂きました。

坂入支部長からは、参加頂いたご来賓や支部会員へのお礼や、今後とも支部活動を活性化していきたいという抱負。白川会長からは、滯電会本部の近況と若い会員等が気軽に参加できるしくみづくりのお願い。伊藤総務幹事からは、母校の学科や研究室などの組織や活動状況、電気系学科創立100周年の記念行事の様子などを伺うことができました。また、舟木会計幹事からは、各滯電会支部に参加されての状況などをお伺いしました。

引き続き議案審議に移り、山間より平成20年度の決算、平成21年度の活動計画や予算等の議案を提案し、全会一致で承認され、総会は無事に終了いたしました。

総会終了後に今年度は講演会を開催し、白川会長から『IEEE Milestoneものがたり:関西が生んだイノベーションを中心として』と題したご講演をいただきました。ご講演ではIEEE Milestoneのご説明から始まり、関西発の偉業として「シャープの電卓」「阪大・近鉄・オムロン・阪急の自動改札機」「関西電力の黒四」「シャープの太陽電池」について、その開発経緯等を含めた紹介を、受賞にいたるまでの裏話なども交え、非常に分かりやすくご講演いただき、出席者一同、興味津々で聞き入ってしまい、あっという間に講演時間が過ぎてしまいました。

講演会の後、懇親会に移り、山下一彦元支部長の乾



杯の音頭により、懇談に入りました。頃合いを見計らい、参加者による自己紹介と近況報告を行いました。皆さんお話好きの方ばかりで、例年にもれず全員が話し終わるころには、終了予定時刻となり、尾田牧弘幹事の音頭で万歳三唱を行い、お開きとなりました。

ご多忙の中、ご出席いただききました皆様方に感謝し、御礼申し上げます。

(山間昭典(電子・昭63、電修・平2)記)

平成21年度滯電会九州支部総会報告

滯電会九州支部では、見学会、支部総会および懇親会を11月7日(土)に開催いたしました。本部より会長の白川功先生、総務幹事の伊藤利道先生にご出席賜りました。

九州支部からは河村寿三(気昭29)、金藤敬一(気昭46)、高木精志(気昭48M)、三谷康範(気昭56)、服部励治(気昭61)、吉水清文(気昭62)、内藤正路(子平元)、小杉成史(気平5)、山本拓郎(気平5)、田口彰(気平7)、長尾孝信(気平8)、渡邊政幸(気平13)、橋口卓平(気平17D)が出席しました。

当日は天候に恵まれホテル日航ハウステンボスに集合後、ハウステンボス内に整備されている長崎次世代エネルギーパークの見学を行いました。当日は株式会社九電工の原田様にご案内をいただき、異国情緒あふれる園内を散策しながら大規模太陽光発電設備やコジェネレーション設備など、電気系出身者にとっては興味の尽きない見学会となりました。出席者からの専門的な質問にもご丁寧に関わりやすい説明をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

支部総会および懇親会はホテル日航ハウステンボスにおいて執り行いました。総会では金藤支部長からのご挨拶のあと、支部事業ならびに会計報告を行い、原案どおり承認されました。その後、本部からお越しの白川会長に「IEEE Milestoneものがたり—関西が生んだイノベーションを中心に—」と題してご講演賜りました。申請にあたりいろいろとご苦労された経緯を交えながら、具体的な数値や写真を多用され非常に興味深く拝聴させていただきました。続いて、伊藤先生からは母校と滯電会本部の近況をご報告いただき、電気系のいまをうかがい知ることができました。懇親会では、吉水様から希少価値の高い米焼酎をご提供いただき、美酒を堪能しながら話題のつきない中で楽しい時間を過ごすことができました。

ご多忙の中、ご出席いただききました皆様方に感謝申



申し上げます。この輪を拓げるべく、九州地区にお知り合いの会員がおられましたら是非ともお声掛けください。今後とも会員皆様のご参加とご協力を切にお願い申し上げます。

(渡邊政幸(電気・平13)記)

杉野隆先生のご逝去を悼んで

電気電子情報工学専攻杉野隆先生は、去る平成22年4月3日、胃がんのため逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

杉野隆先生は、昭和47年3月大阪大学工学部電気工学科を卒業後、同年4月大阪大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程に入学、昭和49年3月同課程を修了、引き続き、同年4月同専攻博士課程に入学、昭和52年3月同課程を単位修得退学、同年4月松下電子工業株式会社に入社しました。昭和57年9月より米国カリフォルニア大学バークレー校へ研究員として留学し、昭和58年2月に「Ⅲ-V族混晶の液相エピタキシャル成長とそのオプトエレクトロニック素子への応用に関する研究」で大阪大学より工学博士の学位を授与されました。昭和63年3月松下電子工業株式会社を退社、同年4月大阪大学助教授(工学部)に採用され、平成10年4月より同大学大学院工学研究科の所属となり、平成15年4月大阪大学教授(大学院工学研究科)に昇任され、電気工学専攻 電気材料・物性工学講座 電気材料工学領域をご担当になりました。さらに専攻が再編された平成17年4月からは大学院工学研究科電気電子情報工学専攻 量子電子デバイス工学部門 エレクトロニクスデバイス講座 量子電子機能材料デバイス領域をご担当されておられました。

教育面では半導体デバイス工学、先端エレクトロニクスデバイス工学特論(大学院)、半導体工学、量子力学、量子電子工学演習、電気材料基礎論、電子情報工学序論(学部)などの授業を担当又は分担し、学生の教育と研究指導に情熱を注いでおられ、これまでに

数多くの優れた研究者、技術者を社会に送り出されてきました。

学内だけでなく学外においても幅広く活躍され学会誌の編集委員、評議委員、支部長を務めるなど学協会の発展にも貢献されました。杉野先生が発起人となり立ち上げた国際会議であるNew Diamond and Nano Carbons Conference (NDNC) は今年 4 回目を迎え、全世界から参加者が集まる会議となっています。療養中も病院を抜け出しては学生の指導に当たられ、亡くなられる直前まで研究論文の執筆に励まれるとともに、次なる研究方針について考えておられました。

葬儀告別式は、4月4日千里会館（桃山台）において、杉野先生とご親族のご意向により、家族葬として、ご親族および一部の大学関係者列席のもとに行なわれました。ここに謹んで、心からのご冥福をお祈り申し上げます。

（青木秀充 電気電子情報工学専攻 准教授
（電気・昭62修）記）

ご寄付御礼

昭和26年電気工学科卒同窓会の皆様 ￥95,000
坂根 治 様（電気・昭33） ￥10,000
山崎 朝 様 ￥10,000
以上の様にご寄付を頂きました。ここに記して厚く御礼申し上げます。

滯電会と大阪大学工業会について

滯電会事務局へのお問い合わせ事項で目立ちますのは、「終身会員であるのに会費の請求をしてきた」ということです。これは、大阪大学工業会と滯電会とを混同しておられるためと思われますので、工業会と滯電会との関係について簡単にご説明いたします。

大阪大学工学部（その前身校を含む）には、学部全体の同窓会「大阪大学工業会」と学科または系の同窓会（例えば電気系学科であれば「滯電会」）があります。従って、滯電会の会員のうちほとんど全ての方は同時に大阪大学工業会の会員なのです。すなわち、会員構成の面では滯電会は工業会の下部組織といえます。

ところが、工業会と滯電会とは財政的には全く独立しておりまして、それぞれが独自に会費制度を設けております。従いまして、工業会会費を既にお支払いになった方、あるいは工業会の終身会員の方からも、滯電会会費（年会費一律4,000円）を頂戴しております。また、滯電会では終身会員制は設けず、毎年会費をお納めいただいております。

会報や名簿の発行などを含め、滯電会の活動は全て会員各位からの会費に依存しております。滯電会の健全財政のため、今後とも会費納入につきましてよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

なお、勤務先、住所の変更などに関しましては工業会とは別途に、滯電会にもお知らせくださいますようお願い申し上げます。

クラス委員

(電気工学科・電気工学科目・電気工学専攻)

昭和12年		落合 岩男
16年		高田 源次
20年		樋口 正樹
22年		山下 義美
23年		山中千代衛
24年		甲佐 史郎
25年		辻 良夫
26年		近藤 道治
27年		木本 保夫
28年旧		藤井 克彦
28年新	30年	辻 三郎
29年	31年	升田 公三
31年	33年	寺崎 泰彦
32年	34年	大川進一郎
33年	35年	鈴木 胖
34年	36年	白藤 純嗣
35年	37年	松浦 虔士
36年	38年	濱口 智尋
37年	39年	黒田 英三
38年	40年	山中 龍彦
39年	41年	吉野 勝美
40年	42年	赤澤 堅造
41年	43年	辻 毅一郎
42年	44年	佐々木孝友
43年	45年	朴 炳植
44年	46年	谷内田正彦
45年	47年	織田 守昭
46年	48年	土師 總一
47年	49年	大森 裕
48年	50年	原 格
49年	51年	田中 和夫
50年	52年	伊藤 利道
51年	53年	木村 紀之
52年	54年	山本 正純
53年	55年	阪部 周二
54年	56年	白神 宏之
55年	57年	伊瀬 敏史
56年	58年	三谷 康範
57年	59年	裏 升吾
58年	60年	尾崎 雅則
59年	61年	江川 泰弘
60年	62年	秋葉 龍郎
61年	63年	服部 励治
62年	平成元年	佐伯 修
63年	2年	藤井 龍彦
平成元年	3年	森 勇介

2年	4年	仙井 浩史
3年	5年	舟木 剛
4年	6年	岩井 真
5年	7年	藤田 和久
6年	8年	板垣 鉄平
7年	9年	川瀬 博基
8年	10年	斎藤 貴光
9年	11年	中島 弘朋
10年	12年	矢野 雅一
11年	13年	緒方 晋也
12年	14年	山下 勝則
13年	15年	小谷 研太
14年	16年	犬伏 雄一
15年	17年	小島 鉄也
16年	18年	坂本 雅樹
17年		村井 良多
18年		吉田 央
19年		大曲 祐子

(通信工学科・通信工学科目・通信工学専攻)

昭和18年		藤澤 和男
19年		黒田 一之
20年		滑川 敏彦
21年		来住 徹
25年		竹内 信雄
26年		長岡 崇雄
28年旧		福井 淳一
28年新	30年	末田 正
29年	31年	由利 宏二
30年	32年	倉橋浩一郎
31年	33年	栗岡 豊
32年	34年	長谷川利治
33年	35年	宮道 繁
34年	36年	樹下 行三
35年	37年	西原 浩
36年	38年	野村 康雄
37年	39年	真田 英彦
38年	40年	中西 暉
39年	41年	塩澤 俊之
40年	42年	藤岡 弘
42年	44年	宮原 秀夫
43年	45年	玉川 允敏
44年	46年	池田 雅夫
45年	47年	中野 秀男
46年	48年	里村 裕
47年	49年	森下 克己
48年	50年	河崎善一郎

49年	51年	北山 研一
50年	52年	樺澤 哲
51年	53年	鬼頭 淳悟
52年	54年	井上 健
53年	55年	中野 幸男
54年	56年	馬場口 登
55年	57年	秦 淑彦
56年	58年	片山 正昭
57年	59年	榎原 博之
58年	60年	山本 幹
59年	61年	平 雅文
60年	62年	原 晋介
61年	63年	大川 剛直
62年	平成元年	荒木 範行
63年	2年	戸出 英樹
平成元年	3年	堀井 康史
2年	4年	松田 洋一
3年	5年	畑 真司
4年	6年	上田 哲也
5年	7年	安部田 貞行
6年	8年	村上 智己
7年	9年	池田 武弘
8年	10年	加藤 真
9年	11年	菅原 弘人
10年	12年	中西 淳平
11年	13年	門田 行広
12年	14年	新熊 亮一
13年	15年	東野 武史
14年	16年	村越 昭彦
15年	17年	藤本 正樹
16年	18年	木下 幸裕
17年		山本 勇樹
18年		森岡 康史
19年		工藤 隆則

52年	54年	中前 幸治
53年	55年	岡田 満哉
54年	56年	藪内 康文
55年	57年	太田 快人
56年	58年	出口 弘
57年	59年	河合 利幸
58年	60年	森 俊彦
59年	61年	正田 博司
60年	62年	綿森 道夫
61年	63年	森 伸也
62年	平成元年	重弘 裕二
63年	2年	藤村 昌寿
平成元年	3年	野口 栄治
2年	4年	赤坐 正樹
3年	5年	上野 隆範
4年	6年	三浦 克介
5年	7年	藤井 彰彦
6年	8年	上向井 正裕
7年	9年	上野 弘明
8年	10年	梶井 博武
9年	11年	野田 研二
10年	12年	島田 尚住
11年	13年	藤澤 猛史
12年	14年	大竹隆 太郎
13年	15年	小野 俊明
14年	16年	三上 真範
15年	17年	樋渡 伸二
16年	18年	松久 裕子
17年		尾島 正禎
18年		六車 充
19年		田村 悠

(情報システム工学科・
情報システム工学科目・情報科学研究科)

平成5年	7年	一階 良知
6年	8年	安部 敬一
7年	9年	原 隆浩
8年	10年	池内 智哉
9年	11年	相坂 一樹
10年	12年	密山 幸男
11年	13年	中尾 太郎
12年	14年	工藤 祐介
13年	15年	兼田 佳和
14年	16年	義久 智樹
15年	17年	庄島 大基
16年	18年	渡辺 賢治
17年	19年	野里 良裕
18年	20年	村尾 和哉
19年	21年	高島 真彦
20年	22年	尾崎 麻耶

(電子工学科・電子工学科目・電子工学専攻)

昭和37年	39年	蒲生 健次
38年	40年	白川 功
39年	41年	尾浦 憲治郎
40年	42年	吉岡 信夫
41年	43年	鷹岡 昭夫
42年	44年	打田 良平
43年	45年	春名 正光
44年	46年	藤原 秀雄
45年	47年	杉本 哲夫
46年	48年	谷口 研二
47年	49年	木 泰治
48年	50年	栖原 敏明
49年	51年	村上 敬一
50年	52年	山田 伸一
51年	53年	西川 博昭

(電気電子情報エネルギー工学専攻・
システム・制御・電力工学コース)

平成20年 吉田 央
21年 大曲 祐子
22年 大道 哲二

(電気電子情報エネルギー工学専攻・
先進電磁エネルギー工学コース)

平成20年 馬場 政志
21年 畠山 幹生
22年 遠藤 恭

(電気電子情報エネルギー工学専攻・
情報通信工学部門)

平成19年 山本 勇樹
20年 森岡 康史

21年 工藤 隆則
22年 木村 共孝

(電気電子情報エネルギー工学専攻・
量子電子デバイス工学部門)

平成19年 尾島 正禎・村井 良多
20年 六車 充
21年 田村 悠
22年 堀 哲郎

クラス委員の変更等ございましたら、事務局まで随時ご連絡下さるようお願いいたします。

今年より、学部卒業年(左)と修士(博士前期)修了年(右)を併記しています。

滯電会 会則

会 則

第1条 本会は滯電会と称する。

第2条 本会は事務局を大阪大学大学院工学研究科電気系内に置く。

第3条 本会は会員の親睦を図り、学術の発展および科学技術に関する知識の啓発に寄与することを目的とし、そのため適宜必要な事業を行う。

第4条 本会の会員はつぎのとおりとする。

(1) 正会員

イ. 大阪大学工学部、工学研究科および情報科学研究科ならびにその前身である学校の電気系卒業生。

ロ. 大阪大学工学部および工学研究科の電気系教官。

ハ. 大阪大学工学部電気系教官主査のもとで学位を得た者で、本会に入会を希望する者。

ニ. 特に本会に縁故があり、役員会の承認を得た者。

(2) 特別会員

正会員以外で大阪大学工学部電気系の教授、助教授および講師であった者ならびに特にこの会に縁故のある者。

(3) 学生会員

大阪大学工学部、工学研究科および情報科学研究科の電気系学生

(4) 賛助会員

本会の活動を援助する法人または個人

第5条 本会に次の役員、委員を置く。

会長 1名

副会長、幹事、クラス委員

第6条 会長は総会の議を経て選出する。副会長、幹事については会長が指名し、総会で承認を得る。クラス委員については学科別卒業年度別に選出する。

第7条 会長は本会の会務を総括し、本会を代表する。副会長は会長を補佐する。

第8条 会長、副会長、幹事は役員会を組織し、会務を処理する。クラス委員はクラスを代表し、本会に関する重要事項の相談にあずかる。

第9条 役員会の推薦により、本会に顧問を置くことができる。

第10条 役員会の任期は2年とする。ただし、重任はさまたげない。

第11条 定期総会は年1回開催する。臨時総会は必要に応じて開催する。定期総会では事業報告、会計報告および役員改選その他の議事を行う。

第12条 本会の事業年度、会計年度は毎年6月1日に始まり、翌年5月31日に終る。

第13条 正会員は別に定めた規定により、会費を毎年7月末日までに納入しなければならない。

第14条 本会は必要に応じて支部を置くことができる。

第15条 本会則の変更は総会の議を経て行う。

細 則

・会費は年額4,000円とする。
(平成7年度より実施)

・大学学部卒業時から53年を経過した会員は、会費の納入を要しない。

滯電会 プライバシーポリシー

滯電会では、会員の皆様から事業推進に際して必要最小限の個人情報をご提供頂き、同窓会活動に利用して参りました。会員の皆様の個人情報の取り扱いにつきまして下記の通りご案内致します。会員の皆様のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 保有する会員の個人情報と個人情報収集方法、利用目的

滯電会（各支部を含む）(以下、本会と称する)が運営上取得した下記の情報を個人情報として取り扱います。

氏名、会員番号、卒業（修了）学部・学科・学科目・研究科・専攻・コース・研究室、卒業（修了）年度、自宅連絡先（住所、電話/FAX番号、電子メールアドレス）、勤務先（勤務先名称、住所、所属部署、役職、電話/FAX番号、電子メールアドレス）等

また本会では、その会則に示す目的のとおり、「会員の親睦を図り、学術の発展および科学技術に関する知識の啓発に寄与することを目的とし、そのため適宜必要な事業を行う」こととして、会員個人情報を以下に示す事業において利用します。

- ① 本会会員名簿の整備および発行。
- ② 本会および本会会員が主催する事業で本会の目的に適ったもの（総会、見学会、同窓会等）の案内およびそれにかかる連絡事項の送付。
- ③ 会報等（電子媒体によるものを含み、本会活動目的に適うものに限る）の配布。
- ④ 会費および寄付金の収受管理、会費徴収に関わる事務、案内。
- ⑤ 大阪大学が行う教育・研究の発展に寄与すると判断される大阪大学主催事業の案内送付。

2. 個人情報の管理と第三者への開示と提供

- (1) 本会が収集した個人情報については、本会により適正に管理を行い、常に個人情報の保護に努めます。
- (2) 本会は、前項①～⑤に示す事業推進において、本会から事業委託された業者等が対応することが適切と判断される場合には、業者等に対して必要最小限の個人情報を開示ならびに提供することがあります。また、大阪大学ならびに大阪大学同窓会連合会等同窓会組織の主催事業で、その利用目的から個人情報の提供が適切と判断される場合には、大阪大学ならびに大阪大学同窓会連合会等同窓会組織に対して必要最小限の個人情報を提供することがあります。なお、個人情報の開示もしくは提供を望まない場合は、本会まで届け出て下さい。届け出のない場合は、原則として「開示可・提供可」として取り扱わせて頂きます。
- (3) 本会から提供する個人情報は紙媒体もしくは電子媒体によるものとします。
- (4) 上記(2)および次の場合を除き、あらかじめ会員本人の事前の同意がない限り、個人情報を第三者へ開示ならびに提供致しません。
 - 法令に基づく場合
 - 人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき。
 - 公衆衛生の向上又は児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき。
 - 国の機関若しくは地方公共団体又はその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。

3. 開示・訂正・利用停止請求

本会は、会員から会員本人の個人情報に関する開示請求の申し出があった場合は、当該本人と確認したうえで、その情報の開示を行います。また、内容が正確でないなどの申し出があった際には、その内容を確認の上、必要に応じて個人情報の追加、変更、訂正または利用停止を行います。

4. 滯電会に関する個人情報のお問い合わせ・ご依頼先

〒565-0871 吹田市山田丘2-1

大阪大学 大学院工学研究科 電気系内 滯電会事務局

電話 06-6879-7789 FAX 06-6879-7774 E-mail reiden@pwr.eng.osaka-u.ac.jp

平成21年度 総会・電気系創立100周年記念式典



総会での白川 功会長挨拶



熊谷信昭先生 ご講演
「21世紀における新しい科学技術の展開をめざして」



櫻井良文先生 乾杯



全体写真

見学会



甲子園球場にて



近鉄けいはんな線車庫・指令所にて

平成21年度 卒業祝賀・謝恩会



白川 功 会長 祝辞



三坂 重雄 様 乾杯



工学賞 表彰



懇親会のひとこま



卒業生代表 高岡竜也君 挨拶



餅つき風景



谷口研二先生 万歳三唱

滞電会ホームページのご案内

滞電会では、会員の皆様への情報発信の為、ホームページを公開・運用しています。昨年秋にもご案内致しました通り、このホームページの URL が下記の通り変更となりました。

旧URL: <http://www.osaka-u.info/~reidenkai/>
新URL: <http://www.reidenkai.jp/>

皆様、ブックマークならびにリンクのご変更をお願い申し上げます。

また、滞電会ホームページでは、平成 21 年 6 月より、会員専用ページを設け、SNS (Social Network Service) としての機能を提供しております。各種の掲示板の他、会員の皆様にのみお届けする情報を掲載しています。今後、皆様からのご意見を取り入れ、さまざまな機能を持った、会員間相互の情報交換の場に育てて行きたいと存じます。会員専用ページへのアクセスには、ID およびパスワードが必要です。滞電会ホームページの「会員専用」ボタンをクリックして頂きますと、ID、パスワードを入力する画面が表示されますので、ID、パスワードをご入力ください。ID、パスワードが分からなくなった場合には、メール等にて、事務局までお問い合わせください。

(三浦克介 (電子・平 4) 記)

滞電会 - 大阪大学工学部電気系同窓会

滞電会へようこそ

本日: 2, 昨日: 32, 合計: 34680

2010.5 (read) [お知らせ]

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

トップページ

<メニュー

- 会長ごあいさつ
- 平成21年度の活動
- 母校のニュース
- 会報「滞電」
- 役員一覧
- 会則
- 個人情報保護指針
- 個人情報の修正
- 会費納入方法
- 更新履歴
- リンク
- お問い合わせ

会員専用

地方支部

- <北陸支部
- <東京支部
- <東海支部
- <中国支部
- <四国支部
- <九州支部

滞電会へようこそ

滞電会は、大阪大学工学部電気系同窓会です。

所在地
〒565-0871 吹田市山田丘2-1
大阪大学大学院工学研究科 電気系内

電話
06-6879-7789(ダイヤルイン)

FAX
06-6879-7774

e-mail
reiden@pwr.eng.osaka-u.ac.jp

事務局
安井晴子

滞電会会長
三浦 克介



編集後記

会報滯電No.31をお届け致します。今回の会報滯電では、昨年度盛大に行われました電気系100周年記念式典の様子を実行委員長の河崎先生にご執筆頂きました。式典は参加者が300名を超える盛会となりまして、新型インフルエンザが猛威をふるう中においてご参加頂いた方、また寄付を頂いた方々に改めて深く感謝申し上げます。また滯電会ホームページがURLも新たにリニューアル致しました。まだ使い勝手が不便なところもあるかとは思いますが、

皆様のご意見を取り入れてよりよい物にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、ご多忙中にも関わらず、本誌記事の執筆に快くご同意下さいました執筆者の皆様、ならびに編集にご協力下さいました皆様に、心より感謝の意を表します。

(編集幹事：三浦克介、牛尾知雄、羽原英明)

発行 滯電会

〒565-0871 吹田市山田丘2-1
大阪大学大学院工学研究科電気系内
電話：06-6879-7789 (ダイヤルイン)
ファックス：06-6879-7774
電子メール：reiden@pwr.eng.osaka-u.ac.jp